



 e-server

iSeries

iSeries エレクトロニック・サービス・エージェント 使用者の手引き

バージョン 5 リリース 2

SC88-4021-00
(英文原典：SC41-5016-00)





@server

iSeries

**iSeries エレクトロニック・サービス・エージェント
使用者の手引き**

バージョン 5 リリース 2

SC88-4021-00
(英文原典：SC41-5016-00)

ご注意

本書の情報およびそれによってサポートされる製品を使用する前に、61 ページの『付録 F. 特記事項および商標』に記載する一般情報をお読みください。

注: この PDF は同じ資料番号のドキュメントを日本語検索可能にしたものです。以前のものと内容に違いはありません。

本版は、V5R2 iSeries™ エレクトロニック・サービス・エージェント™に適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原 典： SC41-5016-00
iSeries
Electronic Service Agent for iSeries User's Guide
Version 5 Release 2

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2002.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1992, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

目次

まえがき	v
本書の対象読者	v
本書の構成	v
ハードウェア問題報告機能およびシステム・インベ ントリ収集/送信機能を使用する場合は、次の章 で説明されている各ステップを参照し、実行してく ださい。	v
エレクトロニック・サービス・エージェントの変更点 のまとめ	v

第 1 部 エレクトロニック・サービ ス・エージェントについて 1

第 1 章 エレクトロニック・サービス・エ ージェントについて 3
エクストリーム・サポートについて 3
マネージメント・セントラルについて 4
ユニバーサル・コネクションについて 4
iSeries ナビゲーターについて 4

第 2 章 関連技術情報 7
ご質問のお問い合わせ先 8

第 2 部 エレクトロニック・サービ ス・エージェントの概要 9

第 3 章 エレクトロニック・サービス・エ ージェントの概要 11

エレクトロニック・サービス・エージェントの機能	11
ハードウェア問題報告機能	11
システム・インベントリ収集/送信機能	12
サポート対象モデル	13
エレクトロニック・サービス・エージェントの仕組 み	13
ハードウェア問題報告機能の仕組み	13
システム・インベントリ収集/送信機能の仕組み	13

第 3 部 エレクトロニック・サービ ス・エージェントのインストール、セ ットアップ、および構成 15

第 4 章 エレクトロニック・サービス・エ ージェント (5798-RZG) のインストール . 17

エレクトロニック・サービス・エージェントの入手 方法 17
エレクトロニック・サービス・エージェントがイン ストール済みかどうかの判別 17

エレクトロニック・サービス・エージェントのイン ストール 18
--

第 5 章 ハードウェア問題報告機能のセッ トアップおよび構成 19

iSeries サーバーの前提条件 19
PTF の前提条件 19
ハードウェア問題報告機能のセットアップおよび構 成 19

第 6 章 システム・インベントリ収集/ 送信機能のセットアップおよび構成 . . . 21

iSeries サーバーの前提条件 21
PC の前提条件 22
PTF の前提条件 22
エレクトロニック・サービス・エージェント・プラ グインの前提条件 23
エレクトロニック・サービス・エージェントのユニ バーサル・コネクションのセットアップおよび構成 . 23
エクストリーム・サポートを介するインベントリ 収集のセットアップおよび構成 25
インベントリ収集/送信タスク 27
インベントリ収集スケジュール済みタスクの検 査 27
マネージメント・セントラルを用いたインベント リ収集と IBM への情報送信の同時実行 28
マネージメント・セントラルを用いたインベント リ収集と IBM への情報送信の個別実行 28
IBMへのインベントリ情報送信の検査 29

第 7 章 エレクトロニック・サービス・エ ージェント・システム情報の表示 31

IBM Electronic Service Agent Information Web サイ ト 31
IBMId に登録する場合 31
iSeries サーバーを登録する場合 31
サーバー情報を表示する場合 32

第 8 章 エレクトロニック・サービス・エ ージェントの削除 33

第 4 部 付録 35

付録 A. 必要な権限 37

付録 B. モデムと接続情報 39

ハードウェア問題報告機能 39
システム・インベントリ収集/送信機能 39
モデム要件 39
通信入出力アダプター要件 40

付録 C. その他の前提条件情報 43
セントラル・システムとして使用するサーバーの選
択 43
マネージメント・セントラル・システム・グループ
の作成 43
付録 D. メッセージ 45

付録 E. 用語集 55
本章で使用する用語 55
付録 F. 特記事項および商標 61

まえがき

本書では、V5R2 **iSeries エレクトロニック・サービス・エージェント (5798-RZG)** の概要、前提条件情報、インストール、セットアップ手順と構成手順、およびユーザー情報を紹介します。

本書の対象読者

本書は、iSeries サーバーおよび iSeries ナビゲーターを熟知している、つまりそれらの動作知識がある iSeries サーバー管理者を対象としています。本書は、iSeries エレクトロニック・サービス・エージェントの V5R2 に関するものなので、iSeries サーバーの基本を理解していると本書をより有効に活用していただけます。

本書の構成

ハードウェア問題報告機能およびシステム・インベントリー収集/送信機能を使用する場合は、次のアウトラインに従ってください。

ハードウェア問題報告機能およびシステム・インベントリー収集/送信機能を使用する場合は、次の章で説明されている各ステップを参照し、実行してください。

- 第 4 章 エレクトロニック・サービス・エージェント (5798-RZG) のインストール
- 第 5 章 ハードウェア問題報告機能のセットアップおよび構成
- 第 6 章 システム・インベントリー収集/送信機能のセットアップおよび構成

エレクトロニック・サービス・エージェントの変更点のまとめ

次に、V5R2 iSeries エレクトロニック・サービス・エージェントで注意すべき変更点を紹介します。

- **ハードウェア問題報告機能**
 - 新しい機能が 2 つ追加されました。
 - エラー・ログ ID なしでテスト問題を送信します。
サービス・エージェントのメイン・メニューのオプション 2。「サービス・エージェント・テスト問題の送信 (Send a Service Agent test problem)」
 - 自動操作テスト
13 週ごとにテスト要求を自動的に送信します。
 - 制限が 1 つなくなりました。
 - *JUL 日付形式が使用できるようになりました。
 - サービス・エージェントのメイン・メニュー
 - オプション 1「サービス・エージェント設定パラメーターの変更 (Change Service Agent settings parameters)」

「問題を自動的に報告 (Report Problem Automatically)」がデフォルトで「*はい (*YES)」になりました (以前は [ブランク] にしておかなければならないパラメーターでした)。

「問題ログ・フィルターの置換 (Replace Problem Log Filter)」がデフォルトで「*置換 (*REPLACE)」になりました (以前は [ブランク] にしておかなければならないパラメーターでした)。

- **インベントリー収集/送信機能**

- インベントリー収集/送信機能

- エレクトロニック・サービスの構成

ユーザーの IBM® 登録 ID を入力して、IBM に送信し、次のエレクトロニック・サービスの Web サイトを使えるようにするためのインターフェース

<https://www.ibm.com/support/electronic/itssysprof/>

- ジョブ・ロギングのオン/オフを切り替える機能

- 監査ログを表示する機能

V5R1 と V5R2 のセントラル・サーバーの監査ログ情報が表示されます。

- ウィザード

- 連絡先情報の入力は、エレクトロニック・サービス・エージェントまたはエレクトロニック支援 (ECS) の接続セットアップのいずれか 1 回だけで済むようになりました。

- ヒストリー・パネル

- ヒストリー・パネルのコンテキスト・メニューで F5 または「最新表示」を使用して、最新表示できるようになりました。

第 1 部 エレクトロニック・サービス・エージェントについて

第 1 章 エレクトロニック・サービス・エージェント	
について	3
エクストリーム・サポートについて	3
マネージメント・セントラルについて	4
ユニバーサル・コネクションについて	4
iSeries ナビゲーターについて	4
第 2 章 関連技術情報	7
ご質問のお問い合わせ先	8

第 1 章 エレクトロニック・サービス・エージェントについて

エレクトロニック・サービス・エージェントは、無償のライセンス・プログラム (5798-RZG) で、イベントをモニターし、サーバー・インベントリー情報をユーザー定義のスケジュールに従って定期的に IBM に送信することを目的とした、サーバー常駐のプログラムです。このリリースのエレクトロニック・サービス・エージェントは、OS/400® V5R2 上で実行されているすべての iSeries サーバーをサポートします。エレクトロニック・サービス・エージェントの主な機能は次の 2 つです。

- **ハードウェア問題報告機能**は、発生する可能性がある問題を早期検出し、修正をダウンロードし、必要に応じて IBM サービスを自動呼び出しすることにより、ハードウェア障害の発生を予測し、防止するものです。発生する可能性がある問題を早い段階で認識することで、IBM は、事前の対策を講じたサービスを提供し、高度な可用性とパフォーマンスの維持を支援することができます。ハードウェア問題報告機能の構成は、iSeries の「コマンド行形式」環境で行います。

注: ハードウェア問題報告機能は、サーバーが保証期間中もしくは保守契約が締結されている事が前提となります。

- **システム・インベントリー収集/送信機能**では、サーバー情報を収集し、問題分析機能および問題防止機能の入力データとしてその情報を電子的に IBM に送信することにより、IBM から高度なサービスを受けることができます。サーバー情報は、**マネージメント・セントラル**によって収集され、保管されます。そして、**ユニバーサル・コネクション**を使用して、IBM に送信されます。ユーザーは、マネージメント・セントラルのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを使って、収集および送信する情報のタイプ、送信する頻度、および送信する時間を選択します。

インベントリーの例。 収集できるサーバー情報は、ハードウェア、ソフトウェア、修正、システム値、サービス属性、連絡先情報、ネットワーク属性、PM/400 パフォーマンス・データ、およびシステム登録です。

エレクトロニック・サービス・エージェントのこの機能では、複数のサーバーから情報を収集し、送信することもできます。この場合は、複数のサーバーのインベントリーを 1 つのセントラル・システムに統合してから、接続を介して送信します。

エレクトロニック・サービス・エージェントのシステム・インベントリー収集/送信機能は、**iSeries ナビゲーター** (iSeries Access の製品) を使用してご利用いただけます。

エクストリーム・サポートについて

エレクトロニック・サービス・エージェントは、エクストリーム・サポートの一部です。エクストリーム・サポートは、IBM iSeries 専用の IBM の包括的な技術サービスおよびサポートです。エクストリーム・サポートは、ユーザーのニーズに応じて、個々のユーザーに合ったトータルなソリューションを提供します。インターネットでのサポート、電話や現場でのサポート、および製品に直接統合されたサポートが含まれます。

Performance Management/400、エレクトロニック・サービス・エージェント、およびマネージメント・セントラルを使用したインベントリ統合で TCP/IP を使用するサポートも、エクストリーム・サポートのオフアリングの 1 つです。

エクストリーム・サポートの詳細については、次のサイトを参照してください。

www.ibm.com/servers/eserver/iserries/support

マネージメント・セントラルについて

マネージメント・セントラルは、iSeries サーバーのグループを 1 つのサーバーとして簡単に管理できるようにすることで iSeries の能力を拡張します。グラフィカル・ユーザー・インターフェースを利用しているため、複数のサーバーを非常に楽に管理することができます。マネージメント・セントラルは、iSeries ナビゲーターおよびオペレーティング・システムに組み込まれており、すべての iSeries に付属しています。アクセス方法は簡単です。iSeries ナビゲーターで「マネージメント・セントラル」を選択するだけで、サーバーの管理を開始することができます。

マネージメント・セントラルの詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/iserries/sftsol/mgmtcentral.htm>

ユニバーサル・コネクションについて

ユニバーサル・コネクションでは、ビジネスと IBM サポート・サービスとの接続方法を制御することができます。いったん接続すれば、必要に応じて、さまざまなカスタマー・サポート・オプションをご利用いただけます。ユニバーサル・コネクションは、エクストリーム・サポートの基本電子支援イネーブラーで、サポートと同時に、個々のニーズに合った処置や支援を受けることが可能になります。ユニバーサル・コネクションを利用すれば、問題判別、パフォーマンス管理、修正管理といった主要な作業を電子的に行うことができます。

エレクトロニック・サービス・エージェントのシステム・インベントリ収集/送信機能は、ユニバーサル・コネクションを使用します。ユニバーサル・コネクションのセットアップおよび構成については、本書の後半で説明します。それまでに、ユニバーサル・コネクションの次の Web サイトを参照しておくことをお勧めします。

ユニバーサル・コネクションの詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/iserries/software/univconn.htm>

iSeries ナビゲーターについて

IBM iSeries ナビゲーターは、iSeries サーバーを管理するための強力なグラフィカル・インターフェースです。iSeries ナビゲーターの機能には、サーバー・ナビゲーション、構成、計画機能、およびタスクの実行に役立つオンライン・ヘルプがあります。iSeries ナビゲーターを利用すれば、サーバーの操作と管理は簡単で生産的になります。これは、OS/400 オペレーティング・システムの新しい拡張機能に対する

唯一のユーザー・インターフェースです。また、セントラル・システムから複数のサーバーを管理するためのマネージメント・セントラルも組み込まれています。

iSeries ナビゲーターの詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/navigator/>

第 2 章 関連技術情報

エレクトロニック・サービス・エージェントで使用される関連製品についてもよく知っておくことを強くお勧めします。入手可能な FAQ (よく尋ねられる質問) を参照すると同時に、iSeries Information Center、iSeries ホーム・ページ、および追加参照情報のリストを使用して、**その他の** iSeries 技術情報も参照してください。

• FAQ (よく尋ねられる質問)

エレクトロニック・サービス・エージェントの Web サイトには、FAQ 専用のセクションが設けられています。このセクションには、PTF、インストール、セットアップ、構成などの質問に対する回答が収められています。

エレクトロニック・サービス・エージェント の次の Web サイトを参照してください。

http://publib.boulder.ibm.com/as400_sd/sdsadoc.html

• iSeries Information Center

iSeries Information Center にアクセスする方法は 2 通りあります。

– Web サイトを利用する:

<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>

– OS/400[®] オーダーに付属の CD-ROM を利用する:

iSeries Information Center および PDF ライブラリー (SK88-8055-01)。このパッケージには、iSeries マニュアルの PDF 版、*iSeries Information Center: 補足資料 PDF CD* (SK88-8056-01) も入っています。これは、ソフトコピー・ライブラリー CD-ROM の内容と同じです。

iSeries Information Center には、解説書の重要なトピックであるアドバイザーが収められており、また、関連する IBM Redbook へのリンクや、Technical Studio や IBM iSeries Support など他の IBM Web サイトへのインターネット・リンクも含まれています。

• iSeries のホーム・ページ

一般情報については、次の Web サイトにある iSeries のホーム・ページを参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/>

• その他の参照情報

– エレクトロニック・サービス・エージェントの詳細については、次のサイトを参照してください。

http://publib.boulder.ibm.com/as400_sd/sdsadoc.html

– マネージメント・セントラルの詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/sftsol/mgmtcentral.htm>

– **iSeries** ナビゲーターの詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/navigator/>

- **iSeries NetServer** の詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/netserver/>

- **Performance Management/400 (PM/400)** の詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/pm400>

- **ユニバーサル・コネクション**の詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/software/univconn.htm>

- **iSeries Access** の詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/clientaccess/>

- エレクトロニック・サービス・エージェントが収集し、IBM に送信した個々のサーバー情報の表示方法については、次のサイトを参照してください。

<https://www.ibm.com/support/electronic/itssysprof/>

ご質問のお問い合わせ先

- お近くの **iSeries サポート・センター**にお問い合わせください。

第 2 部 エレクトロニック・サービス・エージェントの概要

第 3 章 エレクトロニック・サービス・エージェントの概要	11
エレクトロニック・サービス・エージェントの機能	11
ハードウェア問題報告機能	11
システム・インベントリ収集/送信機能	12
サポート対象モデル	13
エレクトロニック・サービス・エージェントの仕組み	13
ハードウェア問題報告機能の仕組み	13
システム・インベントリ収集/送信機能の仕組み	13

第 3 章 エレクトロニク・サービス・エージェントの概要

この章では、エレクトロニク・サービス・エージェントの一般情報を紹介します。

エレクトロニク・サービス・エージェントの機能

ハードウェア問題報告機能

エレクトロニク・サービス・エージェントのハードウェア問題報告機能は、iSeries サーバーの IBM サービス契約の一環として提供されます。この機能の主な目的は、iSeries サーバーでハードウェア障害が発生した場合または発生しそうな場合に、ユーザー、および必要に応じてサービス・プロバイダー (通常は IBM サービス) にその旨を報告することです。これは、問題ログとプロダクト・アクティビティ・ログの 2 つのサーバー・ログ内のエントリーを分析することで行います。iSeries サーバーは、テーブル検索方法を使用して、問題や状況変更を報告します。問題ログおよびプロダクト・アクティビティ・ログには、参照コード変換テーブル (RCTT) フィールドと、システム参照コード (SRC) フィールドがあります。RCTT フィールドでは、特定のハードウェア装置のタイプまたは装置タイプのファミリーで発生する可能性ある問題や状況変更のテーブルを識別します。SRC フィールドは、関連する RCTT 内の特定のエントリーを示します。ハードウェア問題報告機能は、RCTT と SRC を使用して、各ログ・エントリーの重大度を判別します。一致する SRC コードがエレクトロニク・サービス・エージェントのしきい値テーブルにないと、エラー分析フレームワーク (EAF) フラグが参照されます。エラー分析フレームワークは、エラーを代行受信してからプロダクト・アクティビティ・ログにアクセスし、ログに情報を追加して、各種のフラグを設定します。使用するフラグには、問題が隔離されているかどうか、EAF がエラーを代行受信したかどうか、エレクトロニク・サービス・エージェントがエラーを報告する必要があるかどうか、などが含まれます。

ハードウェア問題報告機能は、サービスを要求する前に、問題についての問題分析を自動的に実行することもできます。サーバーが問題ログにハードウェア・エラーを記録すると、その特定のシステム参照コード (SRC) に対応する問題判別手順 (PDP) を処理しようとしています。サーバーですべての SRC の PDP を完了することはできませんが、システム・サービス技術員 (SSR) が問題を適切に理解できるように、できる限り多くの問題診断を行います。つまり、サービス呼び出しを IBM に発行するとき、ハードウェア問題報告機能は、自動問題分析によって生成された有効な交換パーツのリストを含めます。

エレクトロニク・サービス・エージェントのこの機能は、IBM サービス技術員が問題の原因を識別する際に役立ちます。サーバー障害と入出力エラーが動的にモニターされ、分析されます。ユーザー介入は必要ありません。ハードウェア問題報告機能が、交換した方がよい部品と問題対処方法のリストを提供することにより、システム・サービス技術員 (SSR) は時間をかけずにエラー分析を行うことができます。

注: エレクトロニック・サービス・エージェントのハードウェア問題報告機能は、OEM 装置をサポートしません。OEM 装置が接続された iSeries サーバーにエレクトロニック・サービス・エージェントがインストールされている場合は、1-800-IBM-SERV に電話してシステム・サービス技術員 (SSR) にサービス呼び出しを発行し、これらの装置のリソース記述を非活動化してください。

ハードウェア問題報告機能は、IBM の電子的なサービス提供戦略の一環で、その基本目的のほかに、追加機能を実行するように拡張されています。現時点で実装されている拡張機能は次のとおりです。

1. 取り外し可能メディア統計の収集。これらの統計はレポート形式で入手でき、取り外し可能メディアで障害が発生したりパフォーマンスが低下したりしていないかを識別する場合に役立ちます。
2. 予防保守としてサーバーに適用する必要がある重要な PTF の識別と自動ダウンロード。
3. 他のアプリケーションによるサマリーおよび分析を目的とした、IBM サービスへのマシンに関するサービス関連情報の送信。

ハードウェア問題報告機能のときの IBM への接続には、iSeries 上の SDLC または TCP/IP のいずれかによる ECS リンクを使用します。

注: SDLC または TCP/IP のいずれかによる ECS の構成については、付録 B 「モデムと接続情報」を参照してください。

システム・インベントリー収集/送信機能

エレクトロニック・サービス・エージェントのシステム・インベントリー収集/送信機能は、ハードウェア、インストール済みのソフトウェア、パフォーマンス・データ、修正レベルなどのサーバー情報を収集し、その情報をユニバーサル・コネクションを介して電子的に IBM に送信します。単一の iSeries サーバーまたは複数のサーバーのインベントリーを作成することができます。サーバーが複数ある場合は、各サーバーのインベントリーを 1 つのマネージメント・セントラル・システムに統合してから送信します。

注: 送信する情報や送信する時間など、IBM へのデータ送信を制御することができます。

収集して IBM に送信することができるサーバー・インベントリー情報は、次のように分類されます。

- **ハードウェア** - 通信、システム・アダプター、LAN リソース、ワークステーション・リソース、プロセッサ情報、記憶装置を含む物理的なオブジェクトのリスト。
- **ソフトウェア** - インストールおよびサポートされているソフトウェア製品と関連するライセンス情報のリスト。
- **修正** - 特定のソフトウェア製品で発生または発生する可能性がある問題のプログラム一時修正 (PTF)、つまり修正と、関連するグループ PTF 情報。
- **システム値** - システム値とその設定のリスト。セントラル・システムとエンドポイント・システムの両方が OS/400 V4R5 以上で実行されている場合のみ利用できます。

- **サービス属性** - サーバーのサービス属性。
- **連絡先情報** - 組織内でサーバーの修理や保守を担当する人の名前、組織の住所、プログラム一時修正 (PTF) カバー・レターに対して希望する言語を示す言語コードを含む、組織の連絡先情報。
- **ネットワーク属性** - サーバーのネットワーク属性。
- **PM/400 パフォーマンス・データ** - 非プロプライエタリー (外部に提供可能な) パフォーマンス・データおよび能力データ。
- **システム登録** - ユーザーがサーバーを IBM に登録するときに提供する情報のリスト (連絡先情報、連絡先住所、マシン・タイプ、シリアル番号、インストール日など)。

サポート対象モデル

このレベルのエレクトロニック・サービス・エージェントは、OS/400 V5R2 上で実行されているすべての iSeries サーバーをサポートします。

エレクトロニック・サービス・エージェントの仕組み

ハードウェア問題報告機能の仕組み

エレクトロニック・サービス・エージェントのハードウェア問題報告機能では、ハードウェア障害を検出し、自動問題報告に合わせて情報を作成し、その情報を TCP/IP または SDLC で ECS 回線を介して IBM に送信することができます。

この機能は、サービス呼び出しが必要と判断すると、自動的に呼び出しを IBM または System Manager/400 がインストールされているセントラル・サイトのサーバーに送信します。エレクトロニック・サービス・エージェントおよび System Manager/400 の詳細については、次のエレクトロニック・サービス・エージェント Web サイトの FAQ セクションを参照してください。

http://publib.boulder.ibm.com/as400_sd/sdsadoc.html

サービス呼び出しを発行した場合は、詳細な問題情報を含むメッセージも、指定されたすべてのユーザー ID (ハードウェア問題報告機能のセットアップ時に指定) に送信されます。

システム・インベントリー収集/送信機能の仕組み

エレクトロニック・サービス・エージェントのシステム・インベントリー収集/送信機能は、マネージメント・セントラルで収集し、保管したサーバー情報を取得します。この情報は、ユニバーサル・コネクションを使用して IBM に送信されます。

マネージメント・セントラルでは、インベントリー収集/送信タスクの構成にエクストリーム・サポートを使用します。ユーザーは、ウィザードを使って、収集および送信する情報のタイプ、および送信する頻度と時間を選択できます。この情報から、マネージメント・セントラル・タスクが作成されます。情報を収集直後に IBM に送信することを選択した場合は、作成されるタスクは 1 つです。この単一のタスクは、情報の収集と IBM への送信の両方を行うジョブを実行します。送信時間と収集時間が異なる場合は、マネージメント・セントラル・タスクが 2 つ作成されま

す。一方のタスクは情報を収集するジョブ用、もう一方のタスクは情報を IBM に送信するジョブ用です。これらのタスクは、ユーザーが指定した頻度および日時に実行されます。

情報を IBM に送信する準備が整うと、エレクトロニック・サービス・エージェントは、情報が以前に送信したときから変更されているかどうかを判別します。情報が変更されている場合、または情報を送信したことがない場合、情報は IBM に送信されます。**情報が前に送信したときから変更されていない場合、その情報が再度送信されることはありません。** IBM が情報を正常に受け取ると、エレクトロニック・サービス・エージェントは iSeries サーバーに関する情報を更新し、情報が受け取られたことを示します。これは、エレクトロニック・サービス・エージェントの履歴機能を使用して確認できます。IBM に送信された情報は、IBM の Electronic Service Agent Information Web サイトで確認することができます。詳細については、第 7 章「エレクトロニック・サービス・エージェント・システム情報の表示」を参照してください。

第 3 部 エレクトロニク・サービス・エージェントのインストール、セットアップ、および構成

第 4 章 エレクトロニク・サービス・エージェント (5798-RZG) のインストール 17

エレクトロニク・サービス・エージェントの入手方法 17

エレクトロニク・サービス・エージェントがインストール済みかどうかの判別 17

エレクトロニク・サービス・エージェントのインストール 18

第 5 章 ハードウェア問題報告機能のセットアップおよび構成 19

iSeries サーバーの前提条件 19

PTF の前提条件 19

ハードウェア問題報告機能のセットアップおよび構成 19

第 6 章 システム・インベントリ収集/送信機能のセットアップおよび構成 21

iSeries サーバーの前提条件 21

PC の前提条件 22

PTF の前提条件 22

エレクトロニク・サービス・エージェント・プラグインの前提条件 23

エレクトロニク・サービス・エージェントのユニバーサル・コネクションのセットアップおよび構成 23

エクストリーム・サポートを介するインベントリ収集のセットアップおよび構成 25

インベントリ収集/送信タスク 27

インベントリ収集スケジュール済みタスクの検査 27

マネージメント・セントラルを用いたインベントリ収集と IBM への情報送信の同時実行 28

マネージメント・セントラルを用いたインベントリ収集と IBM への情報送信の個別実行 28

IBMへのインベントリ情報送信の検査 29

第 7 章 エレクトロニク・サービス・エージェント・システム情報の表示 31

IBM Electronic Service Agent Information Web サイト 31

IBMId に登録する場合 31

iSeries サーバーを登録する場合 31

サーバー情報を表示する場合 32

第 8 章 エレクトロニク・サービス・エージェントの削除 33

第 4 章 エレクトロニック・サービス・エージェント (5798-RZG) のインストール

この章では、エレクトロニック・サービス・エージェントをインストールする場合に実行しなければならないステップを紹介します。

エレクトロニック・サービス・エージェントの入手方法

エレクトロニック・サービス・エージェント (5798-RZG) を入手する方法は 2 通りあります。

- 製造段階で iSeries サーバーにプリロード済み。
- OS/400 ソフトウェア・オーダーで **B29xx_07 標準セット製品** CD-ROM に組み込み済み。

エレクトロニック・サービス・エージェントがインストール済みかどうかの判別

エレクトロニック・サービス・エージェント (5798-RZG) がすでに iSeries サーバーにインストールされているかどうかを判別するには、次の手順に従ってください。

1. iSeries コマンド行に **DSPSFWRSC** と入力し、**Enter** (キー) を押します。ソフトウェア・リソースのリストが表示されます。
2. **F11** (キー) を押して、ライブラリー/リリースを表示します。「リソース ID (Resource ID)」列に製品 ID **5798RZG** が見つかるまで、**Page Down** (キー) を押します。リソース ID に対応する「リリース (Release)」列の値をチェックし、エレクトロニック・サービス・エージェントのリリースを判別します。**Enter** (キー) を押します。

注:

- a. エレクトロニック・サービス・エージェントのリリース V5R2 は、OS/400 V5R2 上で実行されているすべての iSeries サーバーにインストールされています。
- b. エレクトロニック・サービス・エージェントの V5R2 がサーバーにインストールされていることを判別した場合、製品を再インストールする必要はありません。
- c. エレクトロニック・サービス・エージェントの V5R2 がサーバーにインストールされていないことが分かった場合、またはサーバーにインストールされているエレクトロニック・サービス・エージェントが古いリリースだった場合は、次のセクションに進み、エレクトロニック・サービス・エージェントをインストールしてください。

セッションA - [24 x 80]

ソフトウェア資源の表示

システム : AS4002D

資源 ID	オプション	機能	機能タイプ	ライブラリ	リリース
5769FN1	*BASE	5050	*CODE	QFNT60	V4R2M0
5769FN1	*BASE	2984	*LNG	QSYS2984	V4R2M0
5769FN1	1	5075	*CODE	QFNT61	V4R2M0
5769FN1	2	5076	*CODE	QFNT62	V4R2M0
5769FN1	3	5077	*CODE	QFNT63	V4R2M0
5769FN1	4	5078	*CODE	QFNT64	V4R2M0
5769FN1	5	5079	*CODE	QFNT65	V4R2M0
5769VG1	*BASE	5050	*CODE	QVGEN	V4R4M0
5769VG1	*BASE	2962	*LNG	QVGEN	V4R4M0
5769VG1	*BASE	2984	*LNG	QSYS2984	V4R4M0
5798RZG	*BASE	5050	*CODE	QSVCDRCTR	V5R2M0
5798RZG	*BASE	2962	*LNG	QSVCDRCTR	V5R2M0
5798RZG	*BASE	2984	*LNG	QSYS2984	V5R2M0
AJDGP01	*BASE	5050	*CODE	###MACH#B	V5R2M0 L00
AJDG301	*BASE	5050	*CODE	###MACH#B	V5R2M0 L00

続く ...

続行するためには、実行キーを押してください。

F3= 終了 F11= 記述の表示 F12= 取消し F19= 商標の表示

エレクトロニク・サービス・エージェントのインストール

エレクトロニク・サービス・エージェント (5798-RZG) を iSeries サーバーにインストールする場合は、次の手順に従ってください。

注: RSTLICPGM コマンドを使用するためには、*SECADM 権限と *ALLOBJ 権限を持つユーザー・プロファイルが必要です。

注: エレクトロニク・サービス・エージェント (5798-RZG) は、2 次言語のインストールをサポートしていません。

注: 前のリリースからアップグレードする場合は、エレクトロニク・サービス・エージェントをインストールするためのインストール・ステップを実行します。

1. OS/400 ソフトウェア・オーダーと一緒に受け取った **B29xx_07 standard set products** という名前の CD を探します。エレクトロニク・サービス・エージェント (5798-RZG) はこの CD に収められています。
2. iSeries サーバーの CD-ROM 装置にこの CD を挿入します。
3. iSeries サーバーにサインオンします。
4. iSeries コマンド行に **RSTLICPGM LICPGM(5798RZG) DEV(XXXXX)** と入力し (XXXXX は iSeries CD-ROM 装置の名前)、**Enter** (キー) を押します。

注: エレクトロニク・サービス・エージェントのインストールには、**GO LICPGM** を使用することもできます。

第 5 章 ハードウェア問題報告機能のセットアップおよび構成

この章では、エレクトロニック・サービス・エージェントのハードウェア問題報告機能のセットアップおよび構成を行う場合の前提条件チェックリストおよび実行しなければならないステップを紹介します。

iSeries サーバーの前提条件

表 1. iSeries サーバーの前提条件

iSeries サーバーの前提条件	チェックリスト
*SECOFR 権限、および *ALLOBJ、*SECADM、*IOSYSCFG の各特殊権限を持つユーザー・プロファイル (QSECOFR 以外)。*ALLOBJ 権限のないユーザーは、エレクトロニック・サービス・エージェントがアクセスするオブジェクトに対する特殊権限を持っている必要がある。必要な特定の権限については、付録 A 「必要な権限」を参照。	
WRKCNTINF に適正なカスタマー情報が入力されている。コマンド GO MAIN を使用して、オプション 7、4、2 を検査する。	
ネットワーク属性パラメーター MDMCOUNTRYID が、適正な国別コードまたは地域別コードに設定されている。コマンド CHGNETA を使用し、F4 (キー) を押して検査 (プロンプトを表示) する。	
電話が接続されているモデム回線が利用可能であることを検査する。ハードウェア問題報告機能のときの IBM への接続には、ECS リンクを使用する。詳細については、付録 B 「モデムと接続情報」を参照。 注: 新しい iSeries サーバーには、2771 内部モデムが組み込まれている。	

PTF の前提条件

表 2. PTF の前提条件

PTF の前提条件	チェックリスト
ハードウェア問題報告機能を使用する場合に必要な、エレクトロニック・サービス・エージェント、iSeries Access、マネージメント・セントラルなどの PTF。次のエレクトロニック・サービス・エージェント Web サイト http://publib.boulder.ibm.com/as400_sd/sdsadoc.html の FAQ セクションを参照。	

ハードウェア問題報告機能のセットアップおよび構成

ハードウェア問題報告機能をセットアップして構成する場合は、次の手順に従ってください。

1. iSeries コマンド行に GO SERVICE と入力し、Enter (キー) を押します。

2. 「プログラム・メッセージの表示 (Display Program Messages)」画面が表示された場合は、カーソルをメッセージの上に置き、**F1** (キー) を押して追加メッセージ情報を確認してから、**Enter** (キー) を押して次に進みます。**G** を入力し、システム値 **QRETSVRSEC** を **1** に変更し、**Enter** (キー) を押します。
3. 「サービス・エージェントの活動化 (Activate Service Agent)」でオプション **1** を選択し、**Enter** (キー) を押します。
4. 「サービス・プログラムの国際ライセンス契約 (International License Agreement for Services Programs)」を読みます。ここを読んだら、**F6** (キー) を押してこの契約を許諾することを了承し、次に進みます。
5. 活動化パスワードを入力し、**Enter** (キー) を押します。
活動化パスワードを入手する場合は、次の手順に従ってください。
 - **1 次:** IBM ハードウェア・サービス にお問い合わせください。
 - **2 次:** お近くの **iSeries サポート・センター** にお問い合わせください。
6. 操作環境のニーズに合わせて「サービス・エージェントの変更 (Change Service Agent)」画面でパラメーター値を変更します。**Enter** (キー) を押します。
7. 操作環境のニーズに合わせて「サービス要求の送信 (Send Service Request)」画面でパラメーター値を変更します。**Enter** (キー) を押します。
8. 「機能テスト (Function Test)」画面で、次のことを行います。
 - エレクトロニック・サービス・エージェントを今すぐテスト/登録する場合は、**Enter** (キー) を押してエラー・ログ ID なしでテスト問題を作成するか、**DASD** または **IOP** エラー・ログ ID を入力して **Enter** (キー) を押し、エラー・ログ ID を使ってテスト問題を作成します。

注: テストの結果をチェックするには、エレクトロニック・サービス・エージェントのメイン・メニューのオプション **15** を使用します。テスト問題に関する問題ログ・エントリーが作成されているはずですが、「状況 (Status)」フィールドで、テスト問題が正常に送信されたかどうかを判別します。

エレクトロニック・サービス・エージェントのハードウェア問題報告機能をセットアップして構成するステップはこれで完了です。

第 6 章 システム・インベントリー収集/送信機能のセットアップ および構成

この章では、エレクトロニック・サービス・エージェントのシステム・インベントリー収集/送信機能のセットアップおよび構成を行う場合の前提条件チェックリストおよび実行しなければならないステップを紹介します。

iSeries サーバーの前提条件

表 3. iSeries サーバーの前提条件

iSeries サーバーの前提条件	チェックリスト
V5R2 iSeries Access for Windows (5722-XE1) がインストールされている。コマンド DSPSFWRSC を使用して検査する。	
*SECOFR 権限および、 *ALLOBJ 、 *SECADM 、 *IOSYSCFG の各特殊権限を持つユーザー・プロファイル (QSECOFR 以外)。 *ALLOBJ 権限のないユーザーは、エレクトロニック・サービス・エージェントがアクセスするオブジェクトに対する特殊権限を持っている必要がある。必要な特定の権限については、付録 A 「必要な権限」を参照。	
ネットワーク属性パラメーター MDMCNTRYID が、適正な国別コードまたは地域別コードに設定されている。コマンド CHGNETA を使用し、 F4 (キー) を押して検査 (プロンプトを表示) する。	
TCP/IP ネットワークがアクティブである。CFGTCP オプション 10 および 12 をチェックする。完全修飾ホスト名 (ホスト + ドメイン) について、オプション 10 がオプション 12 と一致していること。必要に応じて、コマンド STRTCP を使用して開始する。	
情報を収集する予定の iSeries サーバー を認識している。	
適切な入出力アダプターがインストールされている。アダプターのリストについては、付録 B 「モデムと接続情報」を参照。	
電話が接続されているモデム回線が確実に利用可能である。システム・インベントリー収集/送信機能のときの IBM への接続には、ユニバーサル・コネクションを使用する。詳細については、付録 B 「モデムと接続情報」を参照。 注: 新しい iSeries サーバーには、2771 内部モデムが組み込まれています。	

PC の前提条件

表 4. PC の前提条件

PC の前提条件:	チェックリスト
<p>V5R2 iSeries Access for Windows - 完全インストール (<i>iSeries</i> セットアップおよびオペレーション CD — 資料番号 SK88-8058-01)。インストール手順については、次のサイトを参照。</p> <p>http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter 「Connecting to iSeries」 → 「What to connect with」 → 「iSeries Access」 → 「iSeries Access for Windows」を参照。</p>	
<p>エレクトロニック・サービス・エージェントの構成先の iSeries サーバーに TCP/IP ネットワークで接続されている iSeries ナビゲーター (<i>iSeries Access</i> の機能) (<i>iSeries</i> ナビゲーターには、セントラル・システムから複数のサーバーを管理するためのマネジメント・セントラルが組み込まれている)。詳細については、次のサイトを参照。</p> <p>http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter 「Connecting to iSeries」 → 「What to connect with」 → 「iSeries Navigator」を参照。</p>	
<p>最新の V5R2 iSeries Access Service Pack がインストールされている。 Service Pack のダウンロード情報については、次のサイトを参照。</p> <p>http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter 「Connecting to iSeries」 → 「What to connect with」 → 「iSeries Access」 → 「iSeries Access for Windows」 → 「Administration」 → 「Administering service packs」を参照。</p> <p>NetServer の詳細については、次のサイトを参照。</p> <p>http://www.ibm.com/servers/eserver/iseries/netserver/</p>	
<p>セントラル・システムとして使用したいサーバーを選択する。詳細については、付録 C 「その他の前提条件情報」を参照。</p>	
<p>マネジメント・セントラル・システム・グループを作成する。詳細については、付録 C 「その他の前提条件情報」を参照。</p>	

PTF の前提条件

表 5. PTF の前提条件

PTF の前提条件	チェックリスト
<p>システム・インベントリー収集/送信機能を扱う場合に必要となるエレクトロニック・サービス・エージェント、<i>iSeries Access</i>、マネジメント・セントラルなどの PTF。次のエレクトロニック・サービス・エージェント Web サイト</p> <p>http://publib.boulder.ibm.com/as400_sd/sdsadoc.html の FAQ セクションを参照。</p>	

エレクトロニク・サービス・エージェント・プラグインの前提条件

表 6. プラグインの前提条件

プラグインの前提条件	チェックリスト
<p>エレクトロニク・サービス・エージェント・プラグインがインストールされている。インストールする場合は、 iSeries ナビゲーターから、「ファイル」を開き、「インストール・オプション」、「プラグインのインストール」と選択する。ソース・サーバーを選択し (V5R2 プラグインをインストールする場合は OS/400 V5R2 サーバーを選択)、「OK」をクリックする。必要に応じて、サインオンする。「プラグインのインストール」ウィンドウが表示された場合は、情報を読み、「LMHOSTS に追加 (Add to LMHOSTS)」をクリックする。「プラグイン選択 (Plug-in Selection)」ウィンドウで、「エレクトロニク・サービス・エージェント」を選択し、「次へ」をクリックする。「ファイル・コピーの開始 (Start Copying Files)」で、「次へ」をクリックする。「セットアップ完了 (Setup Complete)」で、「完了」をクリックする。</p> <p>注: エレクトロニク・サービス・エージェントがオプションにない場合、エレクトロニク・サービス・エージェントはすでにインストールされています。「取り消し (Cancel)」をクリックし、さらに「セットアップ終了 (Exit Setup)」をクリックします。</p>	

エレクトロニク・サービス・エージェントのユニバーサル・コネクションのセットアップおよび構成

システム・インベントリー収集/送信機能に対しユニバーサル・コネクションをセットアップおよび構成する場合は、次の手順に従ってください。

1. 「iSeries ナビゲーター」を開きます。
2. 「ユーザー接続」を展開します。
3. システム・インベントリー収集機能を適用するシステムを選択して展開します。
4. 「ネットワーク」を展開します。
5. 「リモート・アクセス・サービス」を展開します。
6. 「発信元接続プロファイル」を右マウス・ボタンでクリックし、「IBM ユニバーサル・コネクションの構成 (Configure IBM Universal Connection)」を選択します。
7. 「ウィザード・ウェルカム (Wizard Welcome)」ウィンドウで「次へ」をクリックします。
8. 「サービス情報 (Service Information)」を検査して、「次へ」をクリックします。
9. 「会社の住所」情報を検査して、「次へ」をクリックします。
10. 「ロケーション」ウィンドウで正しい国または地域を選択し (国または地域がリストにない場合は「ロケーションがリストにない (My location is not in the list)」というチェック・ボックスのみにチェックマークを付けて)、「次へ」をクリックします。

注: 「ロケーションがリストにない (My location is not in the list)」ボックスにチェックマークを付けた場合のみ、「国または地域 (Country or Region)」ウィンドウが表示されます。アプリケーションのデフォルト・ノードを検索する場合は、半球体仕様を使用します。

11. 「アプリケーション」ウィンドウで「**エレクトロニック・サービス・エージェント**」を選択し、「次へ」をクリックします。
12. オプション・リストから「**接続タイプ**」を選択します (この手順を続ける場合は、「AT&T Global Network Service を使用したダイヤルアップ接続 (A dial-up connection using AT&T Global Network Services)」オプションを選択します)。

注: 「AT&T Global Network Service を使用したダイヤルアップ接続 (A dial-up connection using AT&T Global Network Services)」 - これは AT&T Global Network Service (AGNS) を介して確立される接続で、カスタマーと IBM 間でセキュリティーで保護された接続が実現されます。AGNS に対して接続が確立されるときに認証が実行されます。このとき、AGNS は PPP (Point-to-Point Protocol) クライアントに IP アドレスを割り当てます。

13. リストから正しい「**ハードウェア・リソース**」を選択し、「次へ」をクリックします。

注: リソースを選択したら、回線記述を指定しなければなりません。

- 選択したリソースに対して複数の PPP 回線が存在する場合は、既存の回線から選択するか、新しい回線を作成することができます。その場合は「回線の選択 (Choose Line)」ウィンドウが表示されます。
 - 選択したリソースに対し回線が 1 つしか存在しない場合は、その回線が使用されます。回線記述を選択または作成するためのオプション (ウィンドウ) は表示されません。
14. 選択したリソースに対する回線記述が存在しないと、「**回線記述**」ウィンドウが表示されます。新しい回線を作成するようプロンプトが表示されます。デフォルトの回線名は QYSDPPLIN です。必要に応じて、別の名前を使用することもできます。「次へ」をクリックします。
 15. IBM との接続に使用する「**1 次電話番号 (Primary phone number)**」を選択します。「国または地域 (country or region)」フィールドと「都道府県 (state or province)」フィールドには、以前に指定した値がすでに入力されています。フィールドの値が間違っている場合は、正しい値に変更します。使用しなければならない特殊なアクセス番号がある場合は、画面の下部に表示されている指示に従って、ここで入力します。800 番台 (米国のみ) を選択できますが、なるべく 1 次番号には使わないでください。「次へ」をクリックします。

注: 適切な電話番号が見つからない場合は、次の AT&T Business の Web サイトにアクセスして番号を指定することができます。

<http://help.attbusiness.net>

「**Help Center**」ボックスから「**Access Numbers**」を選択します。

16. IBM に連絡する場合の「**バックアップ電話番号 (Backup phone number)**」を選択します。確実に接続できるバックアップ電話番号を選択することが重要です。「次へ」をクリックします。

注: 選択したリソースが内部モデムでなかった場合は、「モデム」ウィンドウが表示されます (モデム名を指定します)。モデムを選択するためのプルダウン・メニューがあります。該当するモデムがリストされていない場合は、新しいモデム定義を作成できます (モデムは PPP 対応でなければなりません)。新しいモデム定義を作成する場合は、「iSeries ナビゲーター」で、「ネットワーク」を展開し、「リモート・アクセス・サービス」下にリストされている「モデム」フォルダーを右マウス・ボタンでクリックします。

17. 構成画面への入力をすべて完了すると、「要約」ウィンドウが表示されます。「要約」画面には、これまでに選択した項目がリストされます。「完了」をクリックします。

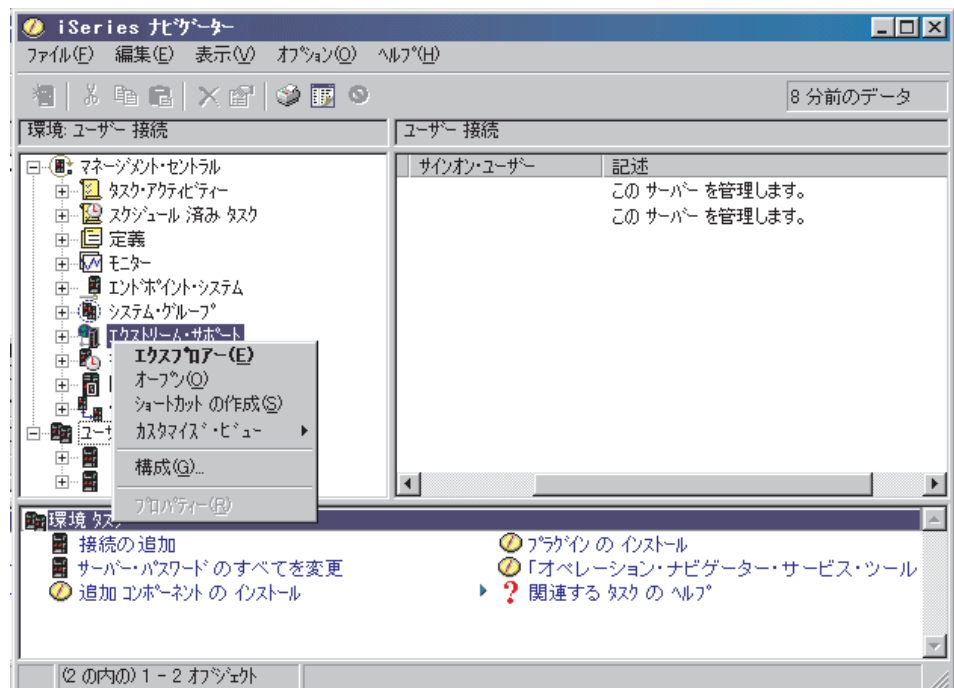
注: 「はい」をクリックして、ユニバーサル・コネクションをテストします。

ユニバーサル・コネクションのセットアップはこれで完了です。

エクストリーム・サポートを介するインベントリー収集のセットアップおよび構成

エクストリーム・サポートを介してシステム・インベントリー収集/送信機能をセットアップおよび構成する場合は、次の手順に従ってください。

1. **iSeries ナビゲーター**で、「マネージメント・セントラル」を展開します。必要に応じて、サインオンします。
2. 「**エクストリーム・サポート**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**構成**」を選択します。



3. 「**エクストリーム・サポート構成 (Extreme Support Configuration)**」ウィザードの「**ウェルカム (Welcome)**」画面で、「**次へ**」をクリックします。

4. 「**エクストリーム・サポート構成機能 (Extreme Support Configuration Functions)**」ウィンドウが表示されます。「**IBM から修正を受け取って IBM に問題を報告する (Receive fixes from IBM and report problems to IBM)**」を選択解除します。「**収集した情報をサービスおよびサポート用に IBM に送信する (Send collected information to IBM for service and support)**」は選択解除しないでください。「**次へ**」をクリックします。
5.
 - ユニバーサル・コネクションをセットアップ済みの場合は、次のステップに進み、「**エクストリーム・サポート**」ウィザードを続けます。
 - ユニバーサル・コネクションをセットアップしていない場合は、「**接続不明 (Connection Not Found)**」ウィンドウが表示されます。ユニバーサル・コネクションの構成をまだ終えていない場合は、「**エクストリーム・サポート**」ウィザードを使ってこの時点で その接続を構成することもできます。必要なユニバーサル・コネクションのセットアップ・ウィンドウへの入力を完了すると、「**エクストリーム・サポート構成セットアップ (Extreme Support Configuration Setup)**」ウィンドウが表示されます。次のステップに進み、「**エクストリーム・サポート**」ウィザードを続行します。
6. 「**エクストリーム・サポート構成セットアップ (Extreme Support Configuration Setup)**」ウィンドウが表示されます。ここから、エレクトロニック・サービス・エージェントのシステム・インベントリー収集機能のセットアップが始まります。「**次へ**」をクリックします。
7. 「**エレクトロニック・サービス・エージェント・ウェルカム (Electronic Service Agent Welcome)**」ウィンドウが表示されます。このウィザードを使って、サーバー情報を収集して IBM に送信する機能をセットアップすることができます。ウィンドウ内の説明をよく読んで、「**次へ**」をクリックします。
8.
 - エレクトロニック・サービス・エージェントのライセンス契約をすでに許諾している場合は、次のステップに進み、「**エクストリーム・サポート**」ウィザードを続けます。
 - エレクトロニック・サービス・エージェントの契約をまだ許諾していない場合は、「**エレクトロニック・サービス・エージェント・ライセンス契約 (Electronic Service Agent License Agreement)**」ウィンドウが表示されます。ライセンス契約を読んで、適切なラジオ・ボタンを選択します。「**次へ**」をクリックします。

注: エレクトロニック・サービス・エージェント・ライセンス契約を許諾しなければ、インベントリー情報を IBM に送信することはできません。
9.
 - PC の前提条件の表に従ってシステム・グループを作成した場合は、「**システム・グループの選択 (Select System Groups)**」ウィンドウが表示されます。IBM に送信する情報を収集するときに使用するシステム・グループを選択します。「**次へ**」をクリックします。
 - PC の前提条件の表に従ってシステム・グループを作成しなかった場合は、ここで作成するよう求められます。システム・グループの作成手順については、「**詳細**」をクリックします。この作業を完了したら、「**OK**」をクリックします。「**システム・グループの選択 (Select System Groups)**」ウィンド

ウが表示されます。「最新表示」をクリックし、新しいシステム・グループを表示します。IBM に送信する情報を収集するとき使用するシステム・グループを選択します。「次へ」をクリックします。

10. 「アクションの実行」ウィンドウが表示されます。「使用可能なアクション」リストから、「エレクトロニック・サービス・エージェント・インベントリーを IBM に送信する (Send Electronic Service Agent inventory to IBM)」を選択します。推奨インベントリーからなる事前選択済みのリストに変更を加えるには、「選択されたアクションのインベントリー」リストから収集および送信する情報のタイプを選択し、それを「実行に選択されたアクション」リストに追加します。

注: 「選択されたアクションの実行前にインベントリーを収集」は選択解除しないでください。

「スケジュール」をクリックします。送信タスクを実行する時間を指定するには、「いつ実行するか」パラメーターと「開始する日付と時刻 (Date and Time to start)」パラメーターを使用します (IBM に情報を送信する頻度としては「日次 (daily)」をお勧めします)。「OK」をクリックします。

11. 「エレクトロニック・サービス・エージェント要約 (Electronic Service Agent Summary)」ウィンドウが表示されます。「次へ」をクリックします。
12. 「エクストリーム・サポート構成要約 (Extreme Support Configuration Summary)」ウィンドウが表示されます。「完了」をクリックします。
選択したエクストリーム・サポート機能のセットアップはこれで完了です。

注: スケジュールしたインベントリー・タスクが重複することがないように管理することをお勧めします。

インベントリー収集/送信タスク

ここでは、利用可能なシステム・インベントリー収集/送信タスクについて説明します。

注: V5R2 以前のセントラル・システムを使用して V5R2 エンドポイント・システムから「連絡先情報」を収集する予定の場合は、QUSRSYS/QAEDCDBPF に対する *USE 権限が必要です。

インベントリー収集スケジュール済みタスクの検査

インベントリー収集タスクがスケジュールされていることを検査する場合は、次の手順に従ってください。

1. 「iSeries ナビゲーター」で、「マネージメント・セントラル」を展開します。必要に応じて、サインオンします。
2. 「スケジュール済みタスク」を展開します。「インベントリー」を選択します。右側のペインに、スケジュール済みタスクが表示されます。
3. 検査したいインベントリー・タスクを指定します。タスクを右マウス・ボタンでクリックし、スケジュールとプロパティーを表示します。

マネージメント・セントラルを用いたインベントリー収集と IBM への情報送信の同時実行

マネージメント・セントラルを用いてインベントリーを収集し、収集が完了した直後に情報を IBM に送信する場合は、次の手順に従ってください。

1. 「iSeries ナビゲーター」で、「マネージメント・セントラル」を展開します。必要に応じて、サインオンします。
2. 「エンドポイント・システム」または「システム・グループ」を展開します。
3. 選択されているエンドポイント・システムまたはシステム・グループのうち、インベントリーを収集して送信したいものを 1 つ右マウス・ボタンでクリックし、「インベントリー」を選択して、「アクションの実行」を選択します。
4. 「使用可能なアクション」リストで、「エレクトロニック・サービス・エージェント・インベントリーを IBM に送信 (Send Electronic Service Agent inventory to IBM)」を選択します。
5. 「選択されたアクションのインベントリー」リストからインベントリーを選択し、そのインベントリーを「実行に選択されたアクション」リストに追加します。
6. 「選択されたアクションの実行前にインベントリーを収集」を選択します。
7. 「OK」をクリックして直ちに収集および送信するか、「スケジュール」をクリックして頻度と時間を指定してから「OK」をクリックします。

マネージメント・セントラルを用いたインベントリー収集と IBM への情報送信の個別実行

インベントリーの収集と IBM への情報送信を同時に実行しない場合は、インベントリーの収集を 1 つのタスクとしてスケジュールし、IBM への情報送信を別のタスクとして別個に実行することができます。

1. 「iSeries ナビゲーター」で、「マネージメント・セントラル」を展開します。必要に応じて、サインオンします。
2. 「エンドポイント・システム」または「システム・グループ」を展開します。
3. 選択されているエンドポイント・システムまたはシステム・グループのうち、インベントリーを収集したいものを 1 つ右マウス・ボタンでクリックし、「インベントリー」を選択して、「収集」を選択します。
4. 収集したいインベントリーを選択します。
5. 「スケジュール」をクリックし、収集タスクを実行したい時間を指定します。「OK」をクリックします。
6. ステップ 3 で指定したものと同一エンドポイント・システムまたはシステム・グループを右マウス・ボタンでクリックし、「インベントリー」を選択して、「アクションの実行」を選択します。
7. 「使用可能なアクション」リストで、「エレクトロニック・サービス・エージェント・インベントリーを IBM に送信 (Send Electronic Service Agent inventory to IBM)」を選択します。
8. 「選択されたアクションのインベントリー」リストからインベントリーを選択し、そのインベントリーを「実行に選択されたアクション」リストに追加します。ステップ 4 で指定したインベントリーを選択します。

9. 「選択されたアクションの実行前にインベントリーを収集」は選択しないでください。
10. 「スケジュール」をクリックし、送信タスクを実行したい時間を指定します。「OK」をクリックします。

IBMへのインベントリー情報送信の検査

インベントリー情報が IBM に送信されたことを検査する場合は、次の手順に従ってください。

1. 「iSeries ナビゲーター」で、「マネージメント・セントラル」を展開します。必要に応じて、サインオンします。
2. 「エクストリーム・サポート」を展開します。
3. 「エージェント (Agents)」を選択します。
4. 「エレクトロニック・サービス・エージェント」を右マウス・ボタンでクリックし、「ヒストリー (History)」を選択します。

第 7 章 エレクトロニック・サービス・エージェント・システム情報の表示

IBM Electronic Service Agent Information Web サイト

IBM の **Electronic Service Agent Information Web** サイトでは、エレクトロニック・サービス・エージェントがこれまでに収集して IBM に送信した個々のサーバー情報を確認することができます。エレクトロニック・サービス・エージェント情報を IBM に送信している各国、各地域のお客様にサーバー情報を提供します。Web でこの情報を表示するのに契約は必要ありません。表示できるのは、IBM に登録を済ませ、IBMid に関連付けられている個々の iSeries サーバーのサーバー情報のみです。

この情報にアクセスする権限をユーザーに付与するには、有効な IBM 登録ユーザー ID を提供します。これを付与するには、全オブジェクト (*ALLOBJ) 権限およびセキュリティー管理者 (*SECADM) 特殊権限が必要です。ユーザーにサーバー情報を表示する権限を付与する場合は、次の手順に従ってください。

IBMid に登録する場合

IBMid に登録するには、次の Electronic Service Agent Information Web サイトにアクセスします。

<https://www.ibm.com/support/electronic/itssysprof/>

1. 「Sign in」矢印の下にある「**register**」を選択し、IBMid に登録します。

iSeries サーバーを登録する場合

iSeries サーバーを登録する方法は 2 通りあります。

注: iSeries ナビゲーターを使用する方法をお勧めします。

1. iSeries ナビゲーターを使用する場合:
 - a. 「iSeries ナビゲーター」で、「マネージメント・セントラル」を展開します。
 - b. 「エクストリーム・サポート」を展開します。
 - c. 「エージェント (Agents)」を選択します。
 - d. 「エレクトロニック・サービス・エージェント」を右マウス・ボタンでクリックし、「エレクトロニック・サービスの構成 (Configure Electronic Services)」を選択します。
 - e. 「情報へのアクセスをユーザーに許可 (Authorize users to access information)」を選択し、有効な IBM 登録ユーザー ID を最大 2 つまで指定します。
 - f. 追加ユーザーに権限を付与する場合は、次の Electronic Service Agent Information Web サイトにアクセスします。

<https://www.ibm.com/support/electronic/itssysprof/>

- 1) 「IBMid」フィールドと「Password」フィールドに入力し、「**Sign in**」をクリックします。
 - 2) ナビゲーション・バーから「**System Registration**」リンクを選択します。
 - 3) ナビゲーション・バーから「**Register systems for users**」リンクを選択し、追加ユーザーに権限を付与します。
2. エレクトロニック・サービス・エージェントの Web サイトを使用する場合:
- a. PC から実行する:
 - 1) 「iSeries ナビゲーター」で、「**マネージメント・セントラル**」を展開します。
 - 2) 「**エクストリーム・サポート**」を展開します。
 - 3) 「**エージェント (Agents)**」を選択します。
 - 4) 「**エレクトロニック・サービス・エージェント**」を右マウス・ボタンでクリックし、「**登録 ID の検索 (Retrieve Registration ID)**」を選択します。
 - 5) 利用可能なサーバーのリストからご使用の iSeries サーバーを選択し、「**ID の検索 (Retrieve ID)**」を選択します。この情報をコピーしておき、後で Electronic Service Agent Information Web サイトに貼り付けることができます。
 - b. iSeries ナビゲーターと Web ブラウザーを使用して Electronic Service Agent Information Web サイトから実行する:

<https://www.ibm.com/support/electronic/itssysprof/>

- 1) 「IBMid」フィールドと「Password」フィールドに入力し、「**Sign in**」をクリックします。
- 2) ナビゲーション・バーから「**System Registration**」リンクを選択します。
- 3) ナビゲーション・バーから「**Add System**」リンクを選択します。
- 4) プラットフォームとして「**iSeries**」を選択します。
- 5) 必要なフィールドに入力し、サービス・エージェント・データベースに各 iSeries サーバーを登録します。ここで入力する情報は、ステップ 2.a.5 で収集した情報です。
- 6) 「**Submit**」をクリックします。

サーバー情報を表示する場合

エレクトロニック・サービス・エージェントが収集して IBM に送信した個々のサーバー情報を表示するには、次の Electronic Service Agent Information Web サイトにアクセスします。

<https://www.ibm.com/support/electronic/itssysprof/>

第 8 章 エレクトロニック・サービス・エージェントの削除

iSeries サーバーからエレクトロニック・サービス・エージェント (5798-RZG) を削除する場合は、次の手順に従ってください。

1. iSeries サーバーにサインオンします。
2. iSeries コマンド行に **DLTLICPGM LICPGM(5798RZG)** と入力し、**Enter** (キー) を押します。

第 4 部 付録

付録 A. 必要な権限

*ALLOBJ 権限のないユーザーがエレクトロニック・サービス・エージェントをセットアップしてインベントリー情報を収集し IBM に送信するためには、これらのオブジェクトに対する特定の権限が必要です。必要な特定の権限については、次の表を参照してください。

表7. 必要な権限

オブジェクト	ライブラリー	オブジェクト・タイプ	必要な権限
次のオブジェクトには GRTOBJAUT を使用:			
QSARTVINV	QSVCDRCTR	*PGM	*USE
QSVCDRCTR	QSYS	*LIB	*USE
QAIPONE	QUSRSYS	*FILE	*CHANGE
QIPRIGS	QSYS	*PGM	*USE
QMARIGS	QSYS	*PGM	*USE
QLZARIGS	QSYS	*PGM	*USE
QEDRIGS	QSYS	*PGM	*USE
QASENDER	QSVCDRCTR	*PGM	*USE
QTOCCNNINF	QSYS	*SRVPGM	*USE
QSASRVID	QUSRSYS	*VLDL	*CHANGE
QAYIVSYS	QUSRSYS	*FILE	*USE
QAYIVHDW	QUSRSYS	*FILE	*USE
QAYIVSFW	QUSRSYS	*FILE	*USE
QAYIVNET	QUSRSYS	*FILE	*USE
QAYIVFGP	QUSRSYS	*FILE	*USE
QAYIVSER	QUSRSYS	*FILE	*USE
QAYIVCON	QUSRSYS	*FILE	*USE
QAYIVPTF	QUSRSYS	*FILE	*USE
QAYIVSYV	QUSRSYS	*FILE	*USE
QAYIVRIG	QUSRSYS	*FILE	*CHANGE
QYPSSRVS	QSYS	*SRVPGM	*USE
QUSRSYS	QSYS	*LIB	*CHANGE
QASA*	QSVCDRCTR	*FILE	*CHANGE
*ALL	QSVCDRCTR	*SRVPGM	*USE
QSVCDRCTR	QSVCDRCTR	*ALL	*USE
AUDITLOG	QSVCDRCTR	*FILE	*CHANGE
QYPSSTRS	QSYS	*PGM	*USE

表 7. 必要な権限 (続き)

オブジェクト	ライブラリー	オブジェクト・タイプ	必要な権限
次のオブジェクトには CHGAUT を使用:			
qibm/proddata/sa400/esrvagt.jar	N/A	N/A	*RX
qibm/proddata/sa400	N/A	N/A	*RX

付録 B. モデムと接続情報

ハードウェア問題報告機能

ハードウェア問題報告機能のときの IBM への接続は、iSeries サーバー上の SDLC または TCP/IP (ユニバーサル・コネクション) のいずれかによる ECS リンクを使用します。

- **SDLC** を用いた **ECS** の構成については、次のサイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>

「**Troubleshooting and Service**」 → 「**Get started with troubleshooting**」 → 「**Customer Support**」 → 「**Electronic customer support**」 と参照します。「**Adding Electronic customer support**」を選択し、「**Traditional connection**」を選択します。

- **TCP/IP (ユニバーサル・コネクション)** を用いた **ECS** の構成については、次のサイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter>

「**Troubleshooting and Service**」 → 「**Get started with troubleshooting**」 → 「**Customer Support**」 → 「**Electronic customer support**」 と参照します。「**Adding Electronic customer support**」を選択し、「**Universal Connection**」を選択します。

ユニバーサル・コネクションの詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/software/univconn.htm>

システム・インベントリ収集/送信機能

システム・インベントリ収集/送信機能のための IBM への接続には、ユニバーサル・コネクションを介した TCP/IP を使用します。TCP/IP 接続に使用するオプション (例えば、AT&T Global Network を使用したダイヤルアップ接続など) を判別するために追加情報が必要な場合は、次のサイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/software/univconn.htm>

モデム要件

接続にモデムを使うことを決定した場合は、次のモデム要件を参照してください。

次の表から、モデムに応じてセットアップできる機能を判別することができます。各機能の詳細については、表の後で説明します。

表8. モデム・オプション

	ハードウェア問題報告機能	システム・インベントリー収集/送信機能
同期	X	
非同期 (2771 および 9771 内部モデムを含む)	X*	X
デュアル・モデル	X	X

* ハードウェア問題報告機能にこのモデムを使用する場合は、TCP/IP を使うように ECS を構成することも必要です。

同期 - 同期モードで動作するようにモデムを構成した場合は、ハードウェア問題報告機能しかセットアップできません (同期対応モデムの例: IBM 7855、IBM 7857、IBM 7858)。

非同期 - 非同期モードで動作するようにモデムを構成した場合は、ハードウェア問題報告機能とシステム・インベントリー収集/送信機能の両方をセットアップできます (例: 2771 および 9771 内部モデム、IBM 7855、IBM 7857、IBM 7858、デュアル・モデル IBM 7852-400)。

注: IBM 以外のモデムの場合は、RS232 シリアル・インターフェースおよび V.34/V.42 プロトコル (V.90 は任意) をサポートする非同期モデムをご使用いただけます。一般的には、デフォルト・モデム設定の DSR (データ・セット・レディー) をオーバーライドしなければなりません。iSeries サーバーがハングアップを検出する場合は、CD (キャリア検出) に従って DSR を設定してください。詳細については、モデムのマニュアルを参照してください。

デュアル・モデル - デュアル・モデルのモデム (例: IBM 7852-400 - 同期モードと非同期モード間の切り替えをサポートするモデム) をご使用の場合は、ハードウェア問題報告機能 (同期) とシステム・インベントリー収集/送信機能 (非同期) の両方をセットアップすることができます。

通信入出力アダプター要件

注:

- OS/400 V5R2 でサポートされているのは PPP 接続だけです。
- V5R2 には、AT&T ダイアルと VPN の 2 つの接続タイプがあります。

次の適切な入出力アダプターのいずれかが存在するかどうかを判別します。

表9. 入出力アダプター

2699*	2 回線 WAN IOA。この IOA には、2629 LAN/WAN/ワークステーション IOP または MFIOIP のいずれかが必要。
2720*	PCI WAN/平衡型 IOA

表9. 入出力アダプター (続き)

2721*	PCI 2 回線 WAN IOA
2745*	PCI 2 回線 WAN IOA (IOA 2721 の後継)
2771	ポート 1 に V.90 内蔵モデム、ポート 2 に標準通信インターフェースを接続した 2 ポート WAN IOA。 2771 アダプターのポート 2 を使用するには、外部モデムおよび適切なケーブルが必要。
2772	2 ポート V.90 内蔵モデム WAN IOA
2793	ポート 1 に V.90 内蔵モデム、ポート 2 に標準通信インターフェースを接続した 2 ポート WAN IOA。 2771 アダプターのポート 2 を使用するには、外部モデムおよび適切なケーブルが必要。
2805	4 ポート V.92 内蔵モデム WAN IOA

* これらのアダプターには、外部 V.24 モデムおよび適切なケーブルが必要。

付録 C. その他の前提条件情報

セントラル・システムとして使用するサーバーの選択

注: セントラル・システムとは、マネージメント・セントラルを介して収集した他のサーバーのインベントリーを管理するサーバーのことです。

- 既存のサーバー (接続) を表示する場合は、次の手順に従ってください。
 1. 「iSeries ナビゲーター」を開きます。
 2. 「ユーザー接続」を展開します。

このリストにセントラル・システムとして使用したいサーバー (接続) が表示されていない場合は、次の手順に従います。

 - a. 「ユーザー接続」を右マウス・ボタンでクリックし、「サーバーとの接続 (Connection to Servers)」および「接続の追加」を選択します。
 - b. 「iSeries ナビゲーターの接続の追加 (iSeries Navigator Add Connection)」ウィザードを続けて、セントラル・システムとして使用したいサーバー (接続) を追加します。
- セントラル・システムとして使用したいサーバーを選択する場合は、次の手順に従います。
 1. 「マネージメント・セントラル」を右マウス・ボタンでクリックし、「セントラル・システムの変更」を選択します。
 2. ドロップダウンから、セントラル・システムとして使用したいサーバーを選択し、「OK」をクリックします。

マネージメント・セントラル・システム・グループの作成

マネージメント・セントラル・システム・グループで、インベントリー情報を収集したいサーバーを定義しておけばスケジュール作業が楽になります。「エレクトロニック・サービス・エージェント」ウィザードを完了するには、システム・グループが必要です。

システム・グループを作成する場合は、iSeries ナビゲーターを使用して、次の手順に従います。

1. 「マネージメント・セントラル」を展開し、必要に応じてサインオンします。
2. 「システム・グループ」を右マウス・ボタンでクリックし、「新規システム・グループ」を選択します。
3. この新しいシステム・グループの名前と記述を「名前」および「記述」に入力します。「使用可能なシステム」リストからエンドポイント・システムを選択し、「追加」ボタンを使用して、「選択されたシステム」のリストにそれらのシステムを追加します。「OK」をクリックします。

付録 D. メッセージ

SDM0000 サービス・エージェント・テスト問題
(Service Agent test problem)

重大度: 0

問題判別: N/A

SDM0001 サービス・エージェントがシステムのプロダクト・アクティビティー・ログ・データを分析しています。(Service Agent is analyzing your system Product Activity Log data.)

重大度: 0

問題判別: **原因:** このメッセージは、サービス・エージェントがシステムのプロダクト・アクティビティー・ログ・データを分析するたびに表示されます。この分析から、予期しない障害を予測し、防止することができません。

SDM1001 サービス・エージェントにより問題 &1 が検出されました。(Problem &1 detected by Service Agent.) 問題 &1 を IBM サービスに報告してください。(Report problem &1 to IBM Service.)

重大度: 80

問題判別: **原因:** サービス・エージェントは、問題ログに、検出したシステム・エラーに対する問題 &1 を作成しました。

リカバリー: 問題 ID &1 に問題処理 (WRKPRB) コマンドを使用します。お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM1002 サービス・エージェントはサービス呼び出しを発行できません — アクションが必要です。(Service Agent is not able to place a service call — action required.)

重大度: 80

問題判別: **原因:** サービス・エージェントがサービス呼び出しを発行しようとしています、発行できません。

リカバリー: ECS の回線記述 (QESLINE)、モデム、および電話回線をチェックします。ECS の回線記述、モデム、または電話回線が別のジョブで使用されている

と、サービス・エージェントはサービス呼び出しを発行できません。可能であれば、サービス・エージェントが呼び出しを発行できるように、ECS の回線記述、モデム、および電話回線を利用できるようにしてください。ECS の電話回線、モデム、および回線記述が利用できないのにこのメッセージが表示される場合は、問題が発生している可能性があります。お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、10-800-IBMSERV までご連絡ください。また、サービス・エージェント回線モニター機能を利用することもできます。この機能の説明を参照する場合またはこの機能を活動化する場合は、GO SERVICE と入力してください。「サービス・エージェント設定の変更 (Change Service Agent settings)」を選択します。

SDM1003 サービス・エージェントはサービス割り当て番号 &1 でサービス呼び出しを発行しました。(Service Agent has placed a Service call with service assigned number &1.)

重大度: 40

問題判別: **原因:** サービス呼び出しが発行されました。ほかに必要なアクションはありません。この呼び出しが IBM に直接発行された場合は、IBM サービス技術員からすぐに連絡があります。この問題に対する PTF をダウンロードした場合は、IBM から連絡がないこともあります。問題の送り先が IBM ではなくサービス・プロバイダーの場合は、サービス割り当て番号はブランクか、<SVD> になります。

SDM1004 サービス・エージェントが問題 &1 に対しサービス呼び出しを発行しています。(Service Agent is placing a service call for problem &1.)

重大度: 40

問題判別: **原因:** サービス・エージェントがサービス呼び出しを発行しました。問題ログ ID は &1 です。

SDM1005 サービス・エージェントの有効期限は &1 (MDY 日付形式) です — アクションが必要です。(Service Agent will expire on &1 (MDY date format) — action required.)

重大度: 40

問題判別: 原因: サービス・エージェントの有効期限が近づいています。

リカバリー: お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM1006 サービス・エージェントの有効期限が切れました — アクションが必要です。(Service Agent has expired — action required.)

重大度: 80

問題判別: 原因: サービス・エージェントの有効期限が切れました。このシステムでサービス・エージェントを利用できなくなりました。

リカバリー: お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM1007 問題 &1 に対するサービス呼び出しが送信されませんでした — アクションが必要です。(Service call for problem &1 not sent — action required.)

重大度: 40

問題判別: 原因: サービス・エージェントは問題 &1 に対してサービス呼び出しを発行しようとしたが、自動サービス呼び出し機能が使用できないので発行できませんでした。

リカバリー: 次のいずれかを実行してください。

1. 問題処理 (WRKPRB) コマンドを使用して、問題 &1 を報告します。
2. 米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。または、お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。

今後、ECS を使用してサービス呼び出しを自動的に発行できるようにしたい場合は、次のいずれかを実行してください。

1. GO SERVICE と入力します。「サービス・エージェント設定の変更 (Change Service Agent settings)」を選択します。「問題を自動的に報告 (Report problem automatically)」を「*はい (*YES)」に変更します。

2. お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM1008 サービス・エージェントはサービス呼び出しを発行できませんでした — アクションが必要です。(Service Agent not able to place a service call — action required.)

重大度: 40

問題判別: 原因: サービス・エージェントは ECS を使用してサービス呼び出しを発行しようとしたが、ECS の回線記述 (QESLINE)、モデム、または電話回線が原因で呼び出しを発行することができませんでした。

リカバリー: 次のことを実行してください。

1. 問題処理 (WRKPRB) コマンドを使用して、問題 &1 を報告します。
2. 前述のサービス・エージェント・メッセージ SDM1002 を参照し、ECS の回線記述、モデム、または電話回線に問題があるかどうかを判別します。
3. このメッセージが続けて表示される場合は、GO SERVICE と入力し、「サービス・エージェント設定の変更 (Change Service Agent settings)」を選択します。
4. 問題が改善されない場合は、お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM1009 サービス・エージェントを使用できません — アクションが必要です。(Service Agent is disabled — action required.)

重大度: 80

問題判別: 原因: サービス・エージェントの活動化に使用するシステム情報がインストール時と異なり、変更されたため、サービス・エージェントを使用できなくなりました。

リカバリー: お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせになり、サービス・エージェント製品を再度インストールしてください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM1010 サービス・エージェントはこのリリースのオペレーティング・システムをサポートしていません — アクションが必要です。
(Service Agent does not support this release of the operating system — action required.)

重大度: 80

問題判別: 原因: インストールされているサービス・エージェント・バージョンは、このリリースのオペレーティング・システムをサポートしていません。オペレーティング・システムのリリースは &1 です。サービス・エージェントのバージョンは &2 です。

リカバリー: サービス・エージェントは現在使用できません。このシステムには PTF または別のバージョンのサービス・エージェント製品が必要です。詳細については、お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM1011 問題作成エラー。(Error creating a problem.)

重大度: 80

問題判別: 原因: サービス・エージェントは、問題ログにプロダクト・アクティビティ・ログ ID &1 に対する問題を作成しようとした。エラーが発生したので、問題は作成されませんでした。

リカバリー: お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM1012 問題 &1 処理エラー。(Error working with problem &1.)

重大度: 80

問題判別: 原因: サービス・エージェントは問題ログで問題 &1 を処理しようとした。エラーが発生しました。

リカバリー: お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM1013 問題 &2 に対し PTF &1 がダウンロードされました。(PTF &1 downloaded for problem &2.)

重大度: 30

問題判別: 原因: サービス・エージェントは問題 &2 を送信しました。PTF &1 がダウンロードされたの

で、これで問題は修正されるはずですが、次のことを実行してください。

1. カバー・レターで指示をチェックします。
2. この PTF はできる限り迅速にロードして適用することをお勧めします。GO PTF と入力し、PTF メニューを表示します。

SDM1017 テスト問題作成エラー。(Error creating a test problem.)

重大度: 40

問題判別: 原因: サービス・エージェントは、問題ログにプロダクト・アクティビティ・ログ・レコード &1 に対する問題エントリを作成しようとした。エラーが発生したので、問題は作成されませんでした。

リカバリー: エラーの原因を示す追加情報については、ジョブ・ログに以前にリストされたメッセージおよびサービス・エージェントの監査ログを参照してください。この障害が発生する一番の理由は、選択したプロダクト・アクティビティ・ログ・エントリが不完全であることです。別のプロダクト・アクティビティ・ログ・エントリを選択して、再度要求を発行してください。

SDM1018 テスト問題が作成されました。(Test problem created.)

重大度: 0

問題判別: 原因: プロダクト・アクティビティ・ログ・レコード &1 を使用して、問題ログにテスト問題エントリが作成されました。問題ログを表示するには、GO SERVICE と入力し、「問題ログの処理 (Work with problem log)」項目を選択します。

重大度:

問題判別:

SDM1020 サービス・エージェント・オブジェクト作成エラー — アクションが必要です。(Error creating Service Agent object — action required.)

重大度: 99

問題判別: 原因: サービス・エージェントは必要なデータ・キューを作成しようとした。データ・キューは作成できませんでした。サービス・エージェントはこのオブジェクトがないと機能しません。

リカバリー: お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせ

わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM1022 サービス・エージェントの活動化が完了しませんでした。(Service Agent activation did not complete.)

重大度: 10

問題判別: 原因: 「サービス・エージェントの変更 (Change Service Agent) (CHGSD) プロンプト画面で Enter キーを押さなかった可能性があります。

リカバリー: 「サービス・エージェントの変更 (Change Service Agent) (CHGSD) プロンプト画面が表示された場合は、必要な値を入力し、Enter キーを押してください。

SDM1023 サービス・エージェントの有効期限は &1 (MDY 日付形式) で満了しました — アクションが必要です。(Service Agent expired on &1 (MDY date format) — action required.)

重大度: 40

問題判別: 原因: サービス・エージェントの有効期限に達しました。サービス・エージェントは現在はまだ動作していますが、まもなく使用できなくなります。

リカバリー: お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM1024 サービス・データ・コレクターの活動化が完了しませんでした。(Services Data Collector activation did not complete.)

重大度: 10

問題判別: 原因: 「サービス・データ・コレクターの変更 (Change Services Data Collector) (CHGSRVCOL) プロンプト画面で Enter キーを押さなかった、または「サービス・データ・コレクターの変更 (Change Services Data Collector) コマンドが異常終了した可能性があります。

リカバリー: 「サービス・データ・コレクターの変更 (Change Services Data Collector) (CHGSRVCOL) プロンプト画面が表示された場合は、必要な値を入力し、Enter キーを押してください。「サービス・データ・コレクターの変更 (Change Services Data Collector) コマンドが異常終了した場合は、詳細についてジョブ・ログ内の以前にリストされたメッセージを参照してください。

SDM1033 サービス・エージェントはサービス割り当て番号 &1 で自動テスト呼び出しを発行しました。(Service Agent has placed an autotest call with service assigned number &1.)

重大度: 40

問題判別: 原因: サービス接続をチェックするために自動操作テスト呼び出しが発行されました。ほかに必要なアクションはありません。この呼び出しについて IBM サービス技術員から連絡はありません。テスト呼び出しの送り先が IBM ではなくサービス・プロバイダーの場合は、サービス割り当て番号はブランクか、<SVDH> になります。

SDM1100 サービス・エージェント・プログラム &1 でエラーが発生しました — アクションが必要です。(Service Agent program &1 encountered an error — action required.)

重大度: 80

問題判別: 原因: このエラーの詳細については、サービス・エージェントの監査ログを参照してください。監査ログを表示するには、GO SERVICE と入力し、「サービス・エージェント監査ログの表示 (Display Service Agent audit log)」項目を選択します。

リカバリー: お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM1110 サービス・エージェントはユーザー &1 にメッセージを送信できませんでした。(Service Agent was unable to send a message to user &1.)

重大度: 20

問題判別: 原因: サービス・エージェント・メッセージのユーザー・リストには &1 が含まれています。サービス・エージェントは、このユーザーのデフォルトのメッセージ・キューにメッセージを送信できませんでした。

リカバリー: サービス・エージェント・メッセージを受け取るユーザーのリストが正しいことを検査します。このリストを表示または更新する場合は、次の手順に従います。

1. GO SERVICE と入力します。
2. オプション 1 「サービス・エージェント設定の変更 (CHANGE SERVICE AGENT SETTINGS)」を選択します。

SDM1120 サービス・エージェント・プログラム &1 がファイル &3 を使用できませんでした。 (**Service Agent program &1 was unable to use file &3.**)

重大度: 80

問題判別: 原因: プログラム &1 でファイル &3 に対する操作 &2 が異常終了しました。サービス・エージェント・オブジェクトが損傷している可能性があります。

リカバリー: お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM2000 サービス・エージェントで問題が発生しました。 (**Service Agent created problem**)

重大度: 0

問題判別: 原因: この問題はサービス・エージェントで発生しました。

SDM3001 サービス・エージェントの自動システム PTF モニター・プログラムを使用できませんでした。 (**Service Agent automatic system PTF monitoring has been disabled.**)

重大度: 40

問題判別: 原因: サービス・プロバイダーにより、サービス・エージェントに自動システム PTF モニター・プログラムを使用できないことが通知されました。

SDM3002 サービス・エージェント PTF モニター・プログラムの構成変更が必要です — アクションが必要です。 (**Configuration changes are needed for the Service Agent PTF monitoring program — action required.**)

重大度: 40

問題判別: 原因: 構成変更が必要です。サービス・プロバイダーにより、サービス・エージェントの自動システム PTF モニター・プログラムのスケジュール日指定を変更するよう通知されました。

リカバリー: 次の手順に従って、スケジュール日指定をチェックします。

1. GO SERVICE と入力します。
2. 「サービス・エージェント設定の変更 (Change Service Agent settings)」を選択します。

SDM3003 サービス・エージェントの自動システム PTF モニター・プログラムによって PTF がダウンロードされませんでした — アクションが必要です。 (**PTFs not downloaded by Service Agent automatic system PTF monitoring program — action required.**)

重大度: 40

問題判別: 原因: サービス・プロバイダーにより、サービス・エージェントに自動システム PTF モニター・プログラムが必要な PTF をダウンロードしなかったことが通知されました。

リカバリー: PTF の修正要求が問題ログに入っています。問題処理 (WRKPRB) コマンドを使用して、修正要求をサービス・プロバイダーに送信します。

SDM3004 サービス・エージェント PTF モニター・プログラムの構成変更が必要です — アクションが必要です。 (**Configuration changes are needed for the Service Agent PTF monitoring program — action required.**)

重大度: 30

問題判別: 原因: 構成変更が必要です。サービス・プロバイダーにより、サービス・エージェントの自動システム PTF モニター・プログラムに、機能を実行する日数の指定を変更するよう通知されました。

リカバリー: 次の手順に従って、スケジュール日指定を表示/変更します。

1. GO SERVICE と入力します。
2. 「サービス・エージェント設定の変更 (Change Service Agent settings)」を選択します。

SDM3005 サービス・エージェントの自動システム PTF モニター・プログラムを構成する必要があります — アクションが必要です。 (**Service Agent automatic system PTF monitoring needs to be configured — action required.**)

重大度: 40

問題判別: 原因: サービス・エージェントの自動システム PTF モニター・プログラムが構成データ不足を検出しました。

リカバリー: 次のことを実行してください。

1. GO SERVICE と入力します。

2. 「サービス・エージェント設定の変更 (Change Service Agent settings)」を選択します。

SDM3010 サービス・エージェントの自動システム PTF モニター・プログラムが始動しました。(Service Agent automatic system PTF monitoring program has started.)

重大度: 10

問題判別: **原因:** サービス・エージェントのシステム PTF モニター・プログラムがシステムをチェックし、PTF が必要かどうかを判別しています。このプログラムは、このシステム上の PTF と、IBM サービスがシステム障害を防ぐために必要と判断した PTF のリストが収められている IBM 情報リポジトリとを比較します。

SDM3012 サービス・エージェントの自動システム PTF モニター・プログラムを続行できません — アクションが必要です。(Service Agent automatic system PTF monitoring program cannot continue — action required.)

重大度: 40

問題判別: **原因:** サービス・エージェントの自動システム PTF モニター・プログラムがサービス・エージェントの構成情報不足を検出しました。

リカバリー: 次のことを実行してください。

1. GO SERVICE と入力します。
2. 「サービス・エージェント設定の変更 (Change Service Agent settings)」を選択します。ほかに必要なアクションはありません。

SDM3013 PTF 要求が異常終了しました — アクションが必要です。(PTF order failed — action required.)

重大度: 40

問題判別: **原因:** サービス・エージェントの自動システム PTF モニター・プログラムが PTF を要求しようとしたが、要求は異常終了しました。

リカバリー: 問題処理 (WRKPRB) コマンドを使用して、修正要求を手動で送信します。送信する必要がある問題ログ・エントリーには、「サービス・エージェントが PTF を要求した (Service Agent required PTF order)」という問題記述があります。PTF がダウンロードされたら、プログラム一時修正ロード (LODPTF) コマンドを使用して PTF をロードします。次に、プログ

ラム一時修正適用 (APYPTF) コマンドを使用して PTF を適用します。

SDM3014 PTF &1 — &2 がダウンロードされました。この PTF をロードして適用してください。(PTF &1 — &2 downloaded. Please load and apply this PTF.)

重大度: 40

問題判別: **原因:** IBM サービスからシステムに常に最適なサービスを提供する作業の一環として、サービス・エージェントは、予期しないシステム障害を防止するため PTF &1 — &2 をダウンロードしました。プログラム一時修正ロード (LODPTF) コマンドを使用して PTF をロードします。次に、プログラム一時修正適用 (APYPTF) コマンドを使用して PTF を適用します。

SDM3015 サービス・エージェントは、PTF &1-&2 を要求するために問題ログ・エントリーを作成しました — アクションが必要です。(Service Agent has created a problem log entry for ordering PTF &1-&2 — action required.)

重大度: 40

問題判別: **原因:** IBM サービスからシステムに常に最適なサービスを提供する作業の一環として、サービス・エージェントは、システムに必要な PTF のリストを収めた問題ログ・エントリーを 1 つ作成しました。PTF &1-&2 は問題ログ・エントリーの 1 つに入っています。次のことを実行してください。

1. 問題処理 (WRKPRB) コマンドを使用して、修正要求を手動で送信します。送信する必要がある問題ログ・エントリーには、「サービス・エージェントが PTF を要求した (Service Agent required PTF order)」という問題記述があります。
2. PTF がダウンロードされたら、プログラム一時修正ロード (LODPTF) コマンドを使用して PTF をロードします。
3. PTF がロードされたら、プログラム一時修正適用 (APYPTF) コマンドを使用して PTF を適用します。

SDM3016 サービス・エージェントは新しい PTF は必要ないと判断しました。(Service Agent has determined that no new PTFs are needed.)

重大度: 10

問題判別: **原因:** IBM サービスからシステムに常に最適なサービスを提供する作業の一環として、サービス・エージェントは、システムをチェックし、システムには

必要な PTF が入っていると判断しました。PTF は要求されていません。

SDM3017 サービス・エージェントは **PTF &1-&2** が必要と判断しました。この PTF をロードして適用してください。 (**Service Agent has determined that PTF &1-&2 is required. Please load and apply this PTF.**)

重大度: 40

問題判別: 原因: IBM サービスからシステムに常に最適なサービスを提供する作業の一環として、サービス・エージェントは、予期しないシステム障害を防止するため PTF &1-&2 をダウンロードすることにしました。ロードして適用する必要があります。プログラム一時修正ロード (LODPTF) コマンドを使用して PTF をロードします。次に、プログラム一時修正適用 (APYPTF) コマンドを使用して PTF を適用します。

SDM3018 サービス・エージェントは **PTF &1-&2** を要求しました。この PTF が届いたら、ロードして適用してください。 (**Service Agent has requested PTF &1-&2. Please load and apply this PTF when it arrives.**)

重大度: 40

問題判別: 原因: IBM サービスからシステムに常に最適なサービスを提供する作業の一環として、サービス・エージェントは、予期しないシステム障害を防止するため PTF &1-&2 を要求しました。この PTF は、IBM 以外のサービス・プロバイダーに要求されました。この PTF が届いたら、プログラム一時修正ロード (LODPTF) コマンドを使用して PTF をロードします。次に、プログラム一時修正適用 (APYPTF) コマンドを使用して PTF を適用します。PTF が届かない場合は、サービス・プロバイダーに連絡してください。

SDM3019 サービス・エージェントが要求した PTF はテープに収めて郵送されます。 (**PTFs requested by Service Agent will be sent on tape.**)

重大度: 40

問題判別: 原因: IBM サービスからシステムに常に最適なサービスを提供する作業の一環として、サービス・エージェントは、予期しないシステム障害を防止するため 1 つ以上の PTF を要求しました。PTF のサイズは ECS 転送サイズの上限を超えています。PTF はテープに収めて郵送されます。テープが届いたら、テープから PTF をロードして適用してください。

SDM3024 PTF &1-&2 カバー・レターがダウンロードされました。 (**PTF &1-&2 cover letter downloaded.**)

重大度: 40

問題判別: 原因: IBM サービスからシステムに常に最適なサービスを提供する作業の一環として、サービス・エージェントは、予期しないシステム障害を防止するため PTF &1-&2 を指定しました。この PTF のカバー・レターがダウンロードされました。

SDM3028 サービス・エージェントは **PTF &1-&2** のカバー・レターを要求しました。 (**Service Agent has requested the cover letter for PTF &1-&2.**)

重大度: 40

問題判別: 原因: IBM サービスからシステムに常に最適なサービスを提供する作業の一環として、サービス・エージェントは、予期しないシステム障害を防止するため PTF &1-&2 を指定しました。この PTF のカバー・レターは、IBM 以外のサービス・プロバイダーに要求されました。

SDM3029 サービス・エージェントが要求した PTF のカバー・レターはテープに収めて郵送されます。 (**PTF cover letters requested by Service Agent will be sent on tape.**)

重大度: 40

問題判別: 原因: IBM サービスからシステムに常に最適なサービスを提供する作業の一環として、サービス・エージェントは、予期しないシステム障害を防止するため 1 つ以上の PTF を指定しました。これらの PTF のカバー・レターは、テープに収めて郵送されます。

SDM3030 動的なしきい値テーブル更新が異常終了しました。 (**Dynamic threshold table updated failed.**)

重大度: 80

問題判別: 原因: サービス・エージェントの AutoPTF 機能がしきい値テーブルを更新しようとして失敗しました。更新要求が無効であったか、または要求は有効であるのに異常終了しました。詳細については、サービス・エージェントの監査ログまたはしきい値テーブルのログを参照してください。

リカバリー: お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM3105 サービス・エージェントの自動操作テストが構成されました。(Service Agent automated operational test configured.)

重大度: 10

問題判別: 原因: サービス・エージェントの自動操作テスト・プログラムが構成されました。値を表示するには、QSVCDRCR/CHGAUTOTST と入力し、F4 (プロンプト) キーを押します。

SDM3110 サービス・エージェントの自動操作テスト・プログラムが開始されました。(Service Agent automated operational test program has started.)

重大度: 10

問題判別: 原因: サービス・エージェントの自動操作テスト・プログラムは、テスト問題をサービス・プロバイダーに定期的送信します。

SDM4001 サービス・エージェント・サブシステムが停止しました — アクションが必要です。(Service Agent subsystem has been stopped — action required.)

重大度: 0

問題判別: 原因: PTF &1-&2 を適用した結果、サービス・エージェント・サブシステム QSVCDRCR が停止しました。再始動する必要があります。

リカバリー: 次の手順に従って、サービス・エージェント・サブシステムを始動します。

1. GO SERVICE と入力します。
2. 「サブシステムの始動 (Start Subsystem)」を選択します。

SDM4002 サービス・エージェント・サブシステムを停止してから再始動する必要があります。(Service Agent Subsystem needs to be stopped and restarted.)

重大度: 80

問題判別: 原因: PTF &1-&2 を適用または除去した結果、サービス・エージェント・サブシステム QSVCDRCR をいったん停止してから再始動する必要があります。サービス・エージェントはこれを自動的に実行しようとしたが、予期しないエラーが発生しました。

リカバリー: QSVCDRCR サブシステムがいったん停止してから再始動します。

1. GO SERVICE と入力します。
2. 「サブシステムの停止 (STOP SUBSYSTEM)」を選択します。
3. 「サブシステムの始動 (START SUBSYSTEM)」を選択します。

SDM5130 サービス・エージェント・プロセス &1 のときにエラーが発生しました。(An error occurred during Service Agent process &1.)

重大度: 10

問題判別: 原因: 詳細については、以前にリストされたメッセージおよびサービス・エージェントの監査ログを参照してください。

リカバリー: お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM5500 QRETSVRSEC システム値が現在 0 です。(G I) (QRETSVRSEC system value currently has a value of 0. (G I))

重大度: 0

問題判別: 原因: エレクトロニック・サービス・エージェントのインベントリー収集/送信機能を使用するには、「サーバー・セキュリティの保存 (Retain Server Security)」(QRETSVRSEC) のシステム値を 1 に設定しなければなりません。これで、システムはサーバーにサーバー・セキュリティ・データを保存できるようになります。

リカバリー: 次のいずれかを実行してください。

- このメッセージを無視して現行の値のままにする場合は、I と入力します。
- システム値を 1 に変更する場合は G と入力します。

メッセージ応答として有効な選択肢は次のとおりです。

- このメッセージを無視します。
- システム値を 1 に変更します。

SDM5505 リモート・サービス・サポート・システムとの通信リンクのテスト中にエラーが発生しました。(An error occurred while testing the communications link to the remote service support system.)

重大度: 0

問題判別: 原因: SNDSRVRQS ACTION(*TEST) コマンドの実行時に例外が検出されました。エレクトロニック・サービス・エージェントが、ハードウェア問題が発

生する可能性があることを IBM に警告する場合にはこの通信リンクが必要です。エレクトロニック・サービス・エージェントのハードウェア問題報告機能を使用しない場合は、このメッセージは無視して構いません。

リカバリー: エラーの原因を判別するには、ジョブ・ログ内の以前にリストされたメッセージを参照してください。詳細については、お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

SDM5999 サービス・エージェント・プロセス &1
が異常終了しました。 (**Service Agent
process &1 ended abnormally.**)

重大度: 40

問題判別: **原因:** 詳細については、以前にリストされたメッセージおよびサービス・エージェントの監査ログを参照してください。

リカバリー: お近くの IBM サービス技術員にお問い合わせください。米国の方は、1-800-IBMSERV までご連絡ください。

付録 E. 用語集

本章で使用する用語

ウィザード (wizard)

複雑なタスクやあまり実行しないタスクの手順をユーザーに指示するグラフィカル・ツール。ウィザードのパネルが順に表示され、それに応じてユーザーはデータを入力し、そのデータを使用してタスクが実行される。1つのウィザードに対し1つのタスクが完了する。通常、ウィザードは自己完結型である。

エクストリーム・サポート (Extreme Support)

エクストリーム・サポートとは、IBM iSeries 専用の IBM の包括的な技術サービスおよびサポートである。

エラー・ログ (error log)

マシン・チェック、装置エラー、およびメディア統計のレコード。

エレクトロニック支援 (electronic customer support)

カスタマーからのアクセスを実現するオペレーティング・システムの一部。質問応答 (Q & A) 機能、問題の分析、報告、管理、IBM 製品情報、および技術情報交換。

エンドポイント・システム (endpoint system)

OS/400 上で実行されていて、セントラル・システムに接続されている任意のシステム。エンドポイント・システムは、マネージメント・セントラル機能を実行する上で、セントラル・システムから定義される。

回線記述 (line description)

システムに接続された特定の通信回線を表す情報を収めたオブジェクト。このオブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *LIND。

グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) (graphical user interface)

高解像度グラフィックスを利用したユーザー・インターフェースのタイプ。グラフィカル・ユーザー・インターフェースでは、グラフィックスの組み合わせ、オブジェクトとアクションの関係、ポインティング装置、メニュー・バーなどのメニュー、オーバーラップ・ウィンドウ、およびアイコンが使われている。

権限 (authority)

システム上で何かを実行するまたは実行させる権限。iSeries サーバーでは、処理するオブジェクトに対する権限を持っていないなければならない。専用認可と共通認可は iSeries サーバーにおける権限の例である。

構成 (configure)

システムにインストールされている装置、プログラム、通信、およびオプション機能の相互接続設定を記述すること。

参照コード変換テーブル (reference code translation table)

参照コードのレコードおよび現場交換可能ユニット (FRU) コードのレコー

ドが収められたオブジェクト。これらのレコードを使用して、ハードウェア障害を報告し、問題分析および問題解決を実行する。このオブジェクト・タイプのシステム認識 ID は *RCT。

システム・グループ (system group)

iSeries ナビゲーターでは、エンドポイント・システムの論理的な集合。

システム・マネージャー (System Manager)

ネットワークで、ネットワーク内のほかの iSeries サーバーに対するサービス・プロバイダーの役割を果たす機能を 1 つの iSeries サーバーに提供する IBM ライセンス・プログラム。

システム参照コード (SRC) (system reference code)

状態を検出した装置の名前およびその状態を表す参照コードを識別する文字。

縮小 (collapse)

分散コンピューティング環境 (DCE) では、セル・ディレクトリー・サービス (CDS) ブラウザーを使用して、表示からディレクトリーの内容を除去する (ディレクトリーを閉じる) こと。展開 (*expand*) と対比。

ジョブ・ログ (job log)

ジョブからシステムに発行された要求、要求に関連するメッセージ、およびジョブについてシステムで実行されたアクションのレコード。

製品 (product)

システム・マネージャーでは、製品 ID または製品定義により OS/400 オペレーティング・システムに対する製品として識別されるプログラムまたはアプリケーション。

接続 (connection)

TCP/IP では、信頼性の高いデータ・ストリーム・デリバリー・サービスを提供する、2 つのプロトコル・アプリケーション間のパス。

セントラル・システム (central system)

マネージメント・セントラル・エンドポイント・システムに対するシステム管理機能を扱う、単一のマネージメント・セントラル iSeries サーバー。

装置 (device)

コンピューターと一緒に使う機器。装置は一般的にはシステムと直接対話せず、コントローラーによって制御される。各装置には、装置記述が関連付けられており、ジョブが関連付けられていることも多い。装置には、ワークステーション、印刷装置、ディスク装置、磁気テープ装置、リモート・システムなどがある。

展開 (expand)

分散コンピューティング環境 (DCE) では、セル・ディレクトリー・サービス (CDS) ブラウザーを使用して、ディレクトリーの内容を表示する (ディレクトリーを開く) こと。縮小 (*collapse*) と対比。

パスワード (password)

コンピューター・システムおよびユーザーが認識する固有の文字ストリング。ユーザーは、この文字ストリングを指定しなければ、システムやシステムに保管されている情報へのアクセスを取得することができない。

入出力アダプター (IOA) (input/output adapter)

1. 入出力プロセッサに装置を接続する入出力コントローラーの機能単位または一部。
2. 装置の場合は、1つの装置を別の装置に接続する論理カード上の電子回路。

パラメーター (parameter)

入力として、またはコマンドまたはプログラムのアクションを制御するために使用される、コマンドまたはプログラムに提供する値。

光ディスク装置 (optical device)

iSeries では、CD-ROM またはデジタル・ビデオ・ディスク (DVD) のいずれか、あるいはその両方を指す装置。

非同期 /SDLC (asynchronous/SDLC)

SDLC のような制御プロトコルを使用して非同期回線上でデータ転送を実現する、データ・リンク・レベルの通信プロトコル。

非同期通信 (asynchronous communications)

スタート・ストップ回線または X.25 回線のいずれかを使用して、リモート・デバイスとのデータ交換を実現するオペレーティング・システムでサポートされる通信方式。非同期通信では、フィルター転送および端末対話機能がサポートされる。

プラグイン (plug-in)

iSeries ナビゲーターの個別にインストール可能なコンポーネント。プラグインをインストールすると、階層ツリーにフォルダーとオブジェクトが追加され、iSeries ナビゲーターのメニューに選択項目が追加され、フォルダーまたはオブジェクトのプロパティ・シートにプロパティ・ページが追加される。

プリロードされたシステム (preloaded system)

ライセンス・プログラムおよびプログラム一時修正 (PTF) がディスクにすでにインストールされて出荷されたシステム。

プログラム一時修正 (PTF) (program temporary fix)

IBMによってライセンス・プログラムの現行の未変更リリースで障害が発生した結果であると診断された問題に対する一時的なソリューションまたは迂回策。修正 (fix) と同義。

プロダクト・アクティビティ・ログ (product activity log)

情報イベント、しきい値分け機能不良、ダンプ、およびエラーに対するエントリーが収められた汎用のシステム・ログ。

ホスト (host)

1. データ通信構成における制御側つまり最上位のシステム。例えば、iSeries サーバーは、そのサーバーに接続されたワークステーションのホスト・システムである。
2. TCP/IP では、インターネット・アドレスが少なくとも1つ関連付けられている任意のシステム。ネットワーク・インターフェースを複数持つホストには、複数のインターネット・アドレスを関連付けることができる。ホストは、クライアント、サーバー、または同時にクライアントとサーバーの両方になることもできる。

マネージメント・セントラル (Management Central)

iSeries ナビゲーターの統合部分である一連のシステム管理機能。マネージメント・セントラルは、複数のシステムを管理するベースとなる。

問題ログ (problem log)

問題とそれらの問題の分析の状況のレコード。

ユーザー名 (user name)

ユーザーがシステムにサインオンしたときにシステムがユーザーと関連付けるユーザー・プロファイルの名前。ユーザー ID とも言う。

ライセンス (license)

OS/400 ライセンス管理では、ライセンスにより、ユーザー・ベースで価格が決まる製品を使用する権限がユーザーに付与される。

ライセンス・プログラム・オファリング (LPO) (licensed program offering)

「ライセンス・プログラム」メニューでサポートされない現場で開発されたプログラム。LPO には別個のインストール指示がある。

1 次言語 (primary language)

情報の表示および印刷に使用するデフォルト言語としてシステムにインストールされている各国語。1 次言語は、システムにサービスを提供する場合にも使用される。

CD-ROM

光学式読み取りコンパクト・ディスク形式の大容量読み取り専用メモリー。iSeries では、CD-ROM ドライブのことを光ディスク装置とも言う。

EZ セットアップ (EZ-Setup)

ユーザーが iSeries ナビゲーターをインストールする場合に使うウィザード。システム名、日付、時刻、および基本的なセキュリティ値を設定し、その他のタスクを実行する。

iSeries ナビゲーター (iSeries Navigator)

iSeries Access for Windows の課金が適用されない機能。OS/400 オペレーティング・システムに組み込まれている。iSeries ナビゲーターは、共通する iSeries 管理機能に Microsoft® Windows のようなインターフェースを提供する。共通する管理機能には、基本的な操作、TCP/IP 構成、ジョブ管理、ユーザーおよびグループ、データベース管理、およびマネージメント・セントラルが含まれる。

iSeries Access for Windows

Windows 95、Windows 98、Windows NT®、および Windows 2000 の各クライアントが TCP/IP を介してパーソナル・コンピュータからクライアント/サーバー機能を実行できるようにする、IBM ライセンス・プログラム。

iSeries Support for Windows Network Neighborhood (iSeries NetServer)

ネットワーク上の Microsoft Windows クライアントが、固有のソフトウェアなしで iSeries 共用ディレクトリー・パスおよび共用出力キューにアクセスできるようにする、OS/400 オペレーティング・システムの機能。

Windows クライアントは、ファイルおよび印刷共用機能については、Windows オペレーティング・システムに組み込まれているものを使用する。

Operating System/400 (OS/400)

iSeries サーバーのオペレーティング・システムとして使用できる IBM ライセンス・プログラムの 1 つ。

Point-to-Point Protocol (PPP)

インターネットのプロトコル・セットで、コンピューターをインターネットに接続する方法。PPP は、ホストからネットワークへの接続およびルーター間の接続を提供する。

Service Pack

PC コードが収められた iSeries ライセンス・プログラムに対するコード修正の集合。修正は、単一の、オーダー可能な iSeries プログラム一時修正 (PTF) に収められており、iSeries Access の Web サイトからダウンロードできる。

TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol)

1. ローカル・ネットワークおよび広域ネットワークの両方に対する対等通信接続機能をサポートする通信プロトコルのセット。
2. インターネットで使用される基本通信プロトコル。TCP/IP は、社内ネットワークでも使用できる。

付録 F. 特記事項および商標

注 - この情報は、世界各国で提供されている製品およびサービスに対して作成されたものです。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更 (たとえば、技術的に不適切な表現や誤植など) は、本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Department 80D
P.O. Box 12195
3030 Cornwallis

Research Triangle Park
NC 27709
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

商標 - 下記の用語は、IBM Corporation の商標です。

IBM
OS/400
AS/400 Service Director
Service Director
AS/400 Service Agent
Electronic Service Agent
Service Agent
Client Access for Windows
iSeries Access
IBM Electronic Service Agent for AS/400
IBM Electronic Service Agent for iSeries
IBM Electronic Services for AS/400
AT&T Global Network Services

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。



Printed in Japan

SC88-4021-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12